

R-18
成人向け

救世の勇者の
ヤリ部屋
VI



Ver. M
original



うん
今日は
日差しが
気持ちいいね

ゼフオント



やあ
マリアーテ

調子はどうだい？



手紙かい？

うん
子供たちの
近況

本当かい？

僕にも
見せてくれ



エメアの娘
アメカはもう
凄い喋れるように
なったって

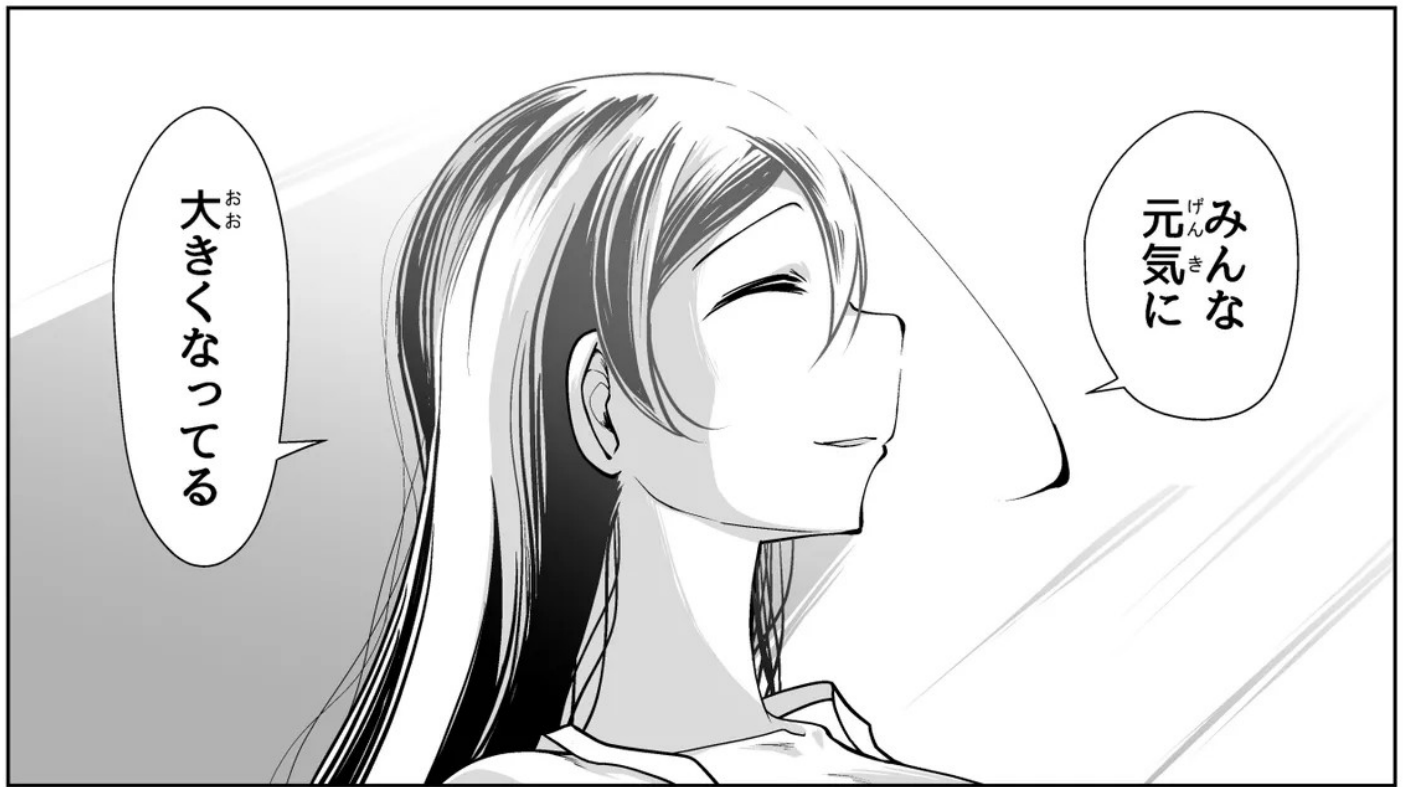
マグニス
は立ち上がる
ようになった

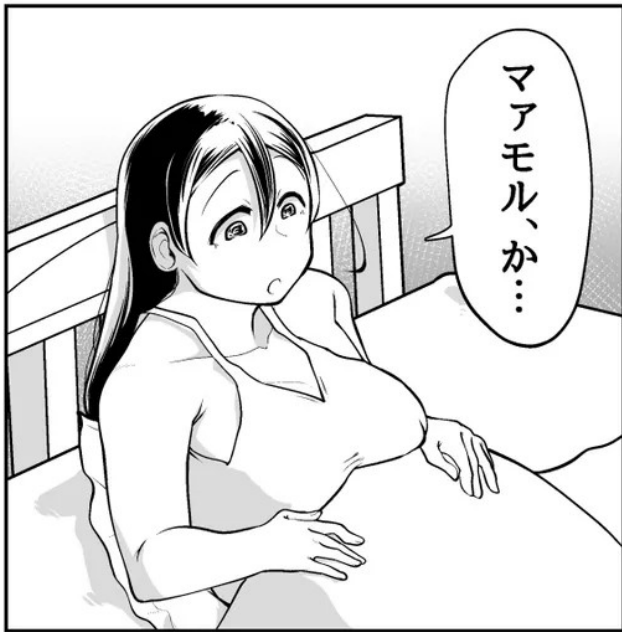


一番上の
マグナレーナは
もう元気に庭を
駆けまわってるって

二人目のマルゴは
いやいや期でみんなを
困らせてる

ふふ





救世の勇者のやり部屋
VI

ソーラの
話は聞いた
かな？

アストラル
魔力に
ついて

はい！

お話し
頂けました

でもその…
私には
ちよつと
難しくて…

はははっ
大丈夫！
僕も全部は
わから
なかったから

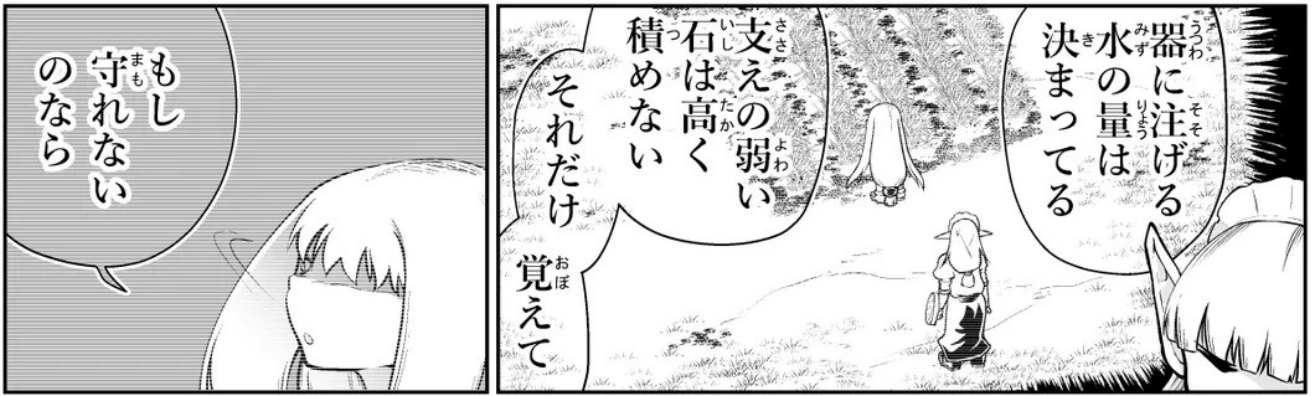
ええ…

ちなみに
何て言ってたかは
覚えてる？

え〜〜つと
アストラル
魔力は全てに
巡るとか何とか…

かぜ
風だつたり
みず
水だつたり…

あつ後
こんな事も
言ってたな…





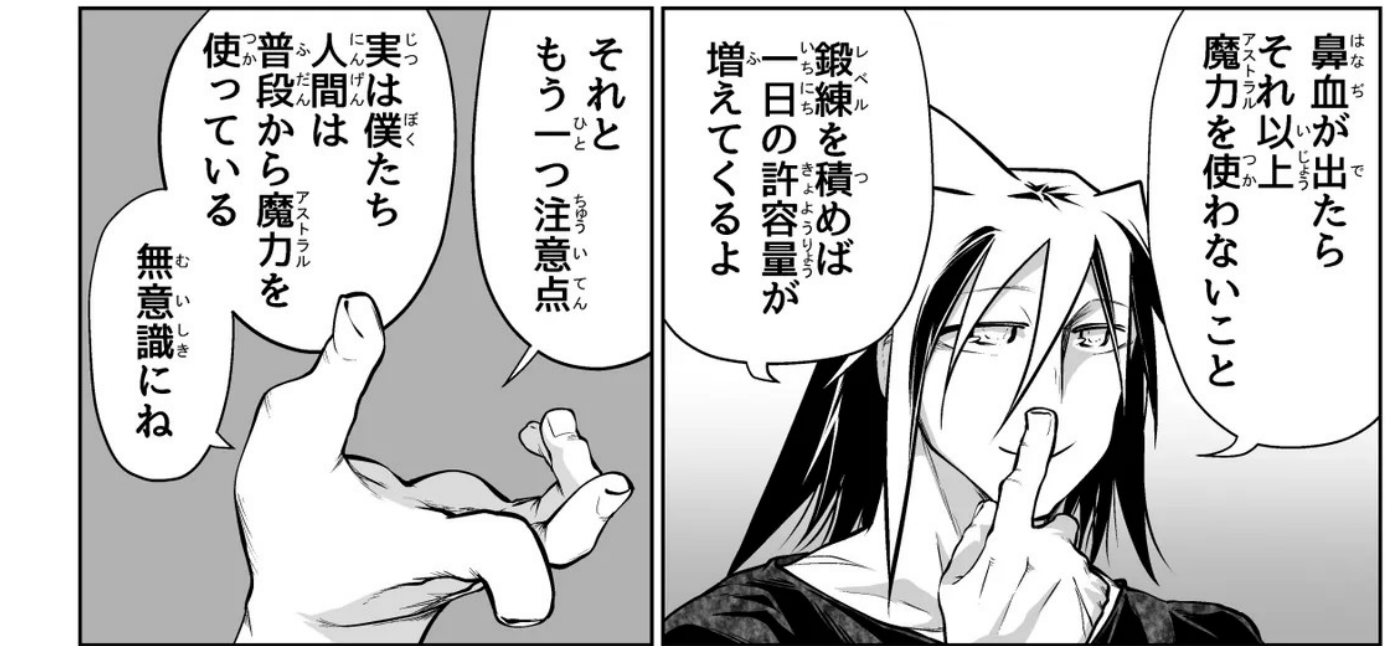
死…つて…
軽く言いますね

予兆は
あるから
大丈夫

まず
目眩が来る

次に頭痛

最後に鼻血



鼻血が出たら
それ以上
魔力を使わないこと

鍛練を積み
一日の許容量が
増えてくるよ

それと
もう一つ注意点

実は僕たち
人間は
普段から魔力を
使っている

無意識にね



強く集中した時
いつも以上に
身体の調子が
良いなんて
経験はない？

それは無意識に
自分に活性法術
を使っている
状態と言える

つまり魔力の活性化を
使用せずとも
戦闘を継続すると

無意識の内に
魔法を使って
死亡する危険が
あるって事ですね



うん
飲み込みが
早いね



さあ鍛練を
はじめよう

まずは魔力を
感じ取れるように――



やっぱり
人が成長する姿は
心地が良いな……

……
……
それにしても



ミデイは
筋が良い

もう魔力での
意識的な身体強化まで
習得してしまった

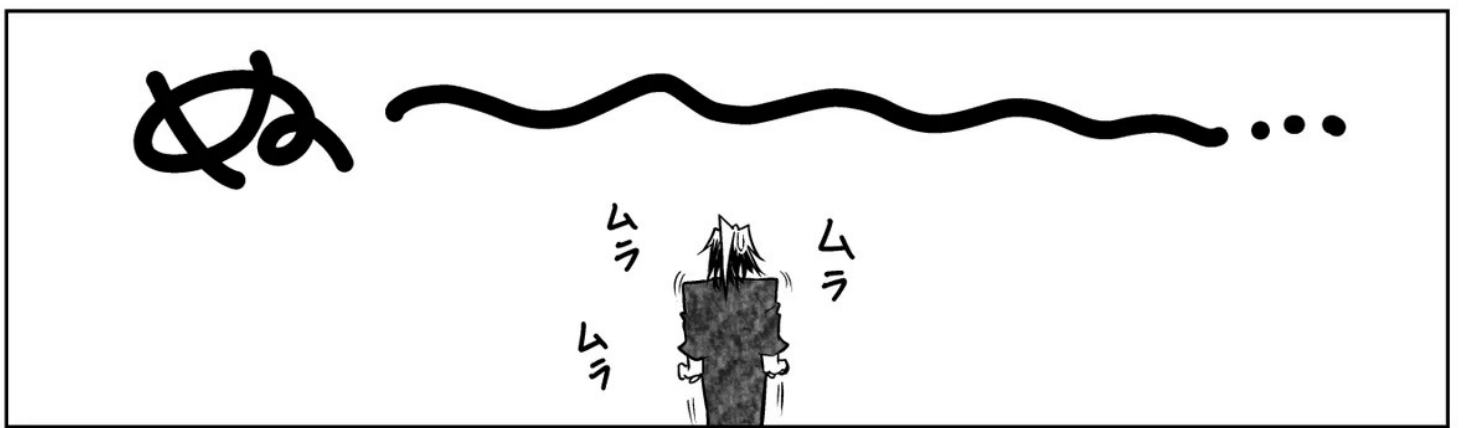
リカ

リカ

リカ



ミデイの露出が
日に日に増えて
いつてる……



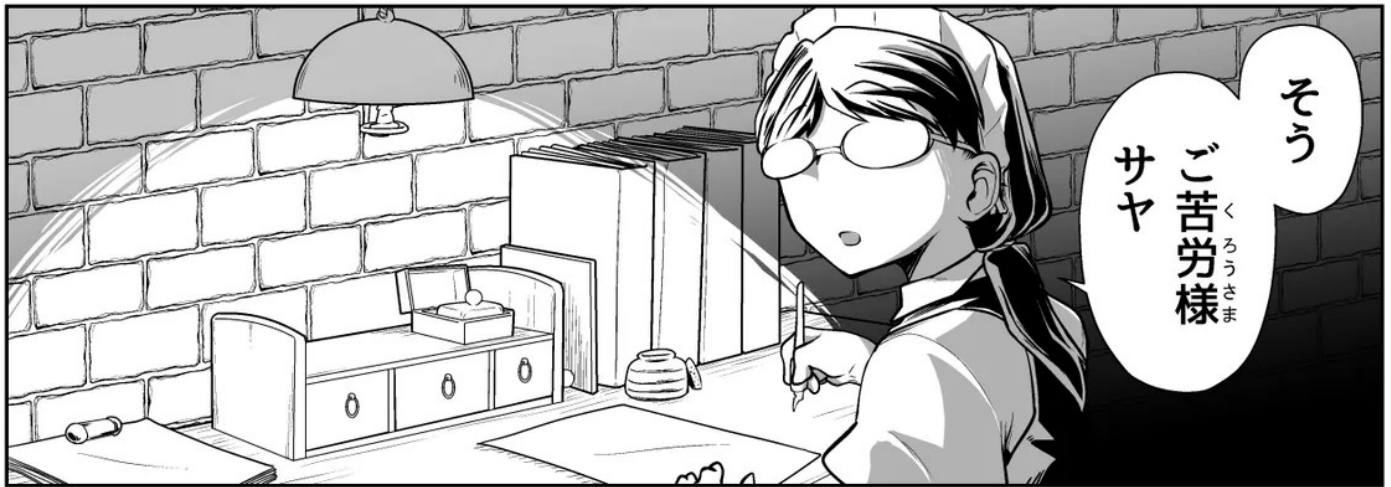
ぬ

ムラ
ムラ
ムラ



婦長ふぢやう

午前中の業務ごぜんちゆうのぎふく
終了しゆうりゆうしました



そう

ご苦労様ごくろうさま
サヤ



あの……
婦長……私わたし



馬の飼葉うまのかいばが
残り僅かのこわずです

午後は蔵出しごごはくらだしに
時間を当てても
構かまいませんか？

わかったわ

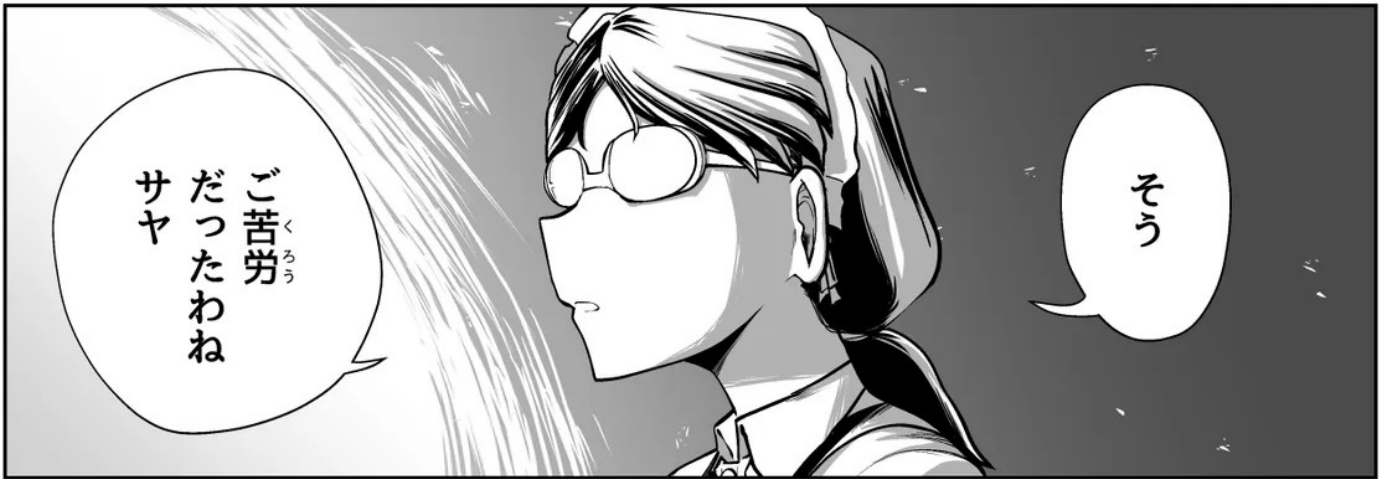
ノーンと二人ふたりで
ミデイに教おしえてあげて





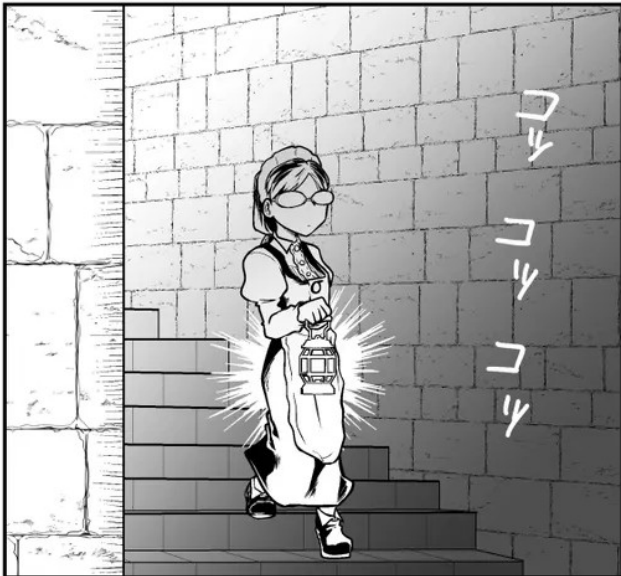
勇者様と関係を持ちました……!

私……!



ご苦労
だったわね
サヤ

そう



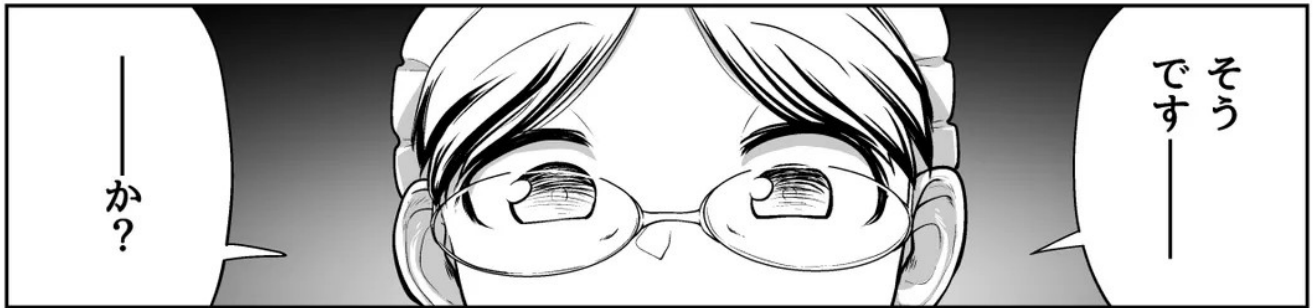
ド
ド
ド
ド
ド



……



あら?





すごい締め付けけるから
射精ちやった...

びっくりしたね？
スピン



はあ

はあ



くっ
もうちょい
射精るっ

♡

♡



あひっ♡
あし♡
あし♡
足っ♡
浮いてる
から！

お降
お降

あ
あ

ああ
すまない

♡



おっと



就寝後
サヤとモイを
連れて寝室まで
おいで



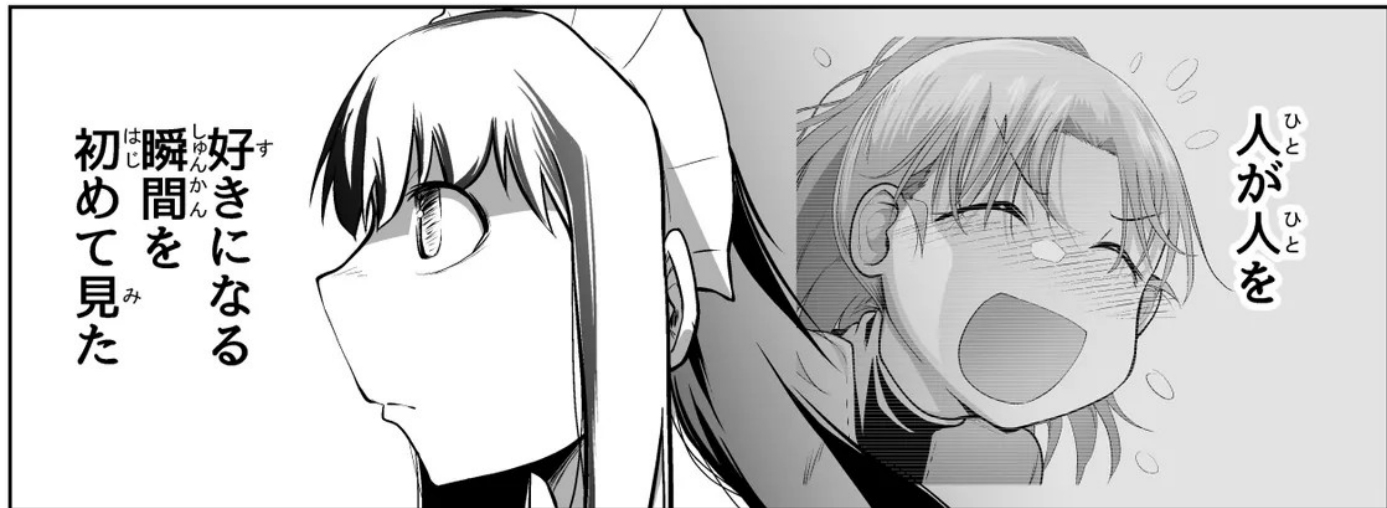
もう…

まだ私
お仕事あるのに
立ってられなく
なっちゃうよ
勇者さま…



はひ…♡

♡



ひとひと
人が人を

す
好きになる
瞬間を
初めて見た



ゆうしゃさま
勇者様と
かんけい
関係を持つ
という

もくひょう
目標を達成
たっせい
できたから？



とき
モイの時は…
ずいぶん
随分と嫉妬した
けど今回は
おちついてる
落ち着いてる



こども
子供の頃から
かれ
彼の事を
きかされていたから
聞かされていたから

わたし
そういえば私
ゆうしゃさま
勇者様を好きになつた
瞬間を思い出せな…

み
おかしちゃん！見て！
お花のかんむり
つくったの！



わたし
きれい？

うち
：お家のお手伝いもせずに
あそ
遊んでいたの？



だめ
駄目じゃない
お手伝いはお勉強になるのよ

だつてえ…

もう…

またグズって…



そうねえ
勇者様なら
きつと褒めて
くれるわ

ほんと？

ええ

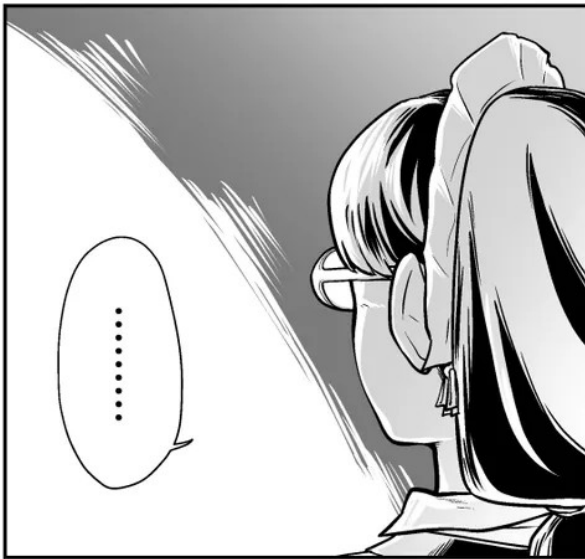


勇者様は
素敵な人だから
きつと褒めてくれる

じゃあわたし
ゆうしゃしゃまの
およめさんになる！



…もう
しょうがない子ね



……



そうねえ
サヤちゃん
が
使用人の
仕事を

しつかり
まっとう
全うできれ
ば
お嫁さん
に
してもら
える
かもし
れない
わ

——失礼します

カクカクカク



すみません
モイが見付からなくて…



ああ
モイなら

もう居いるよ



いらっしやい

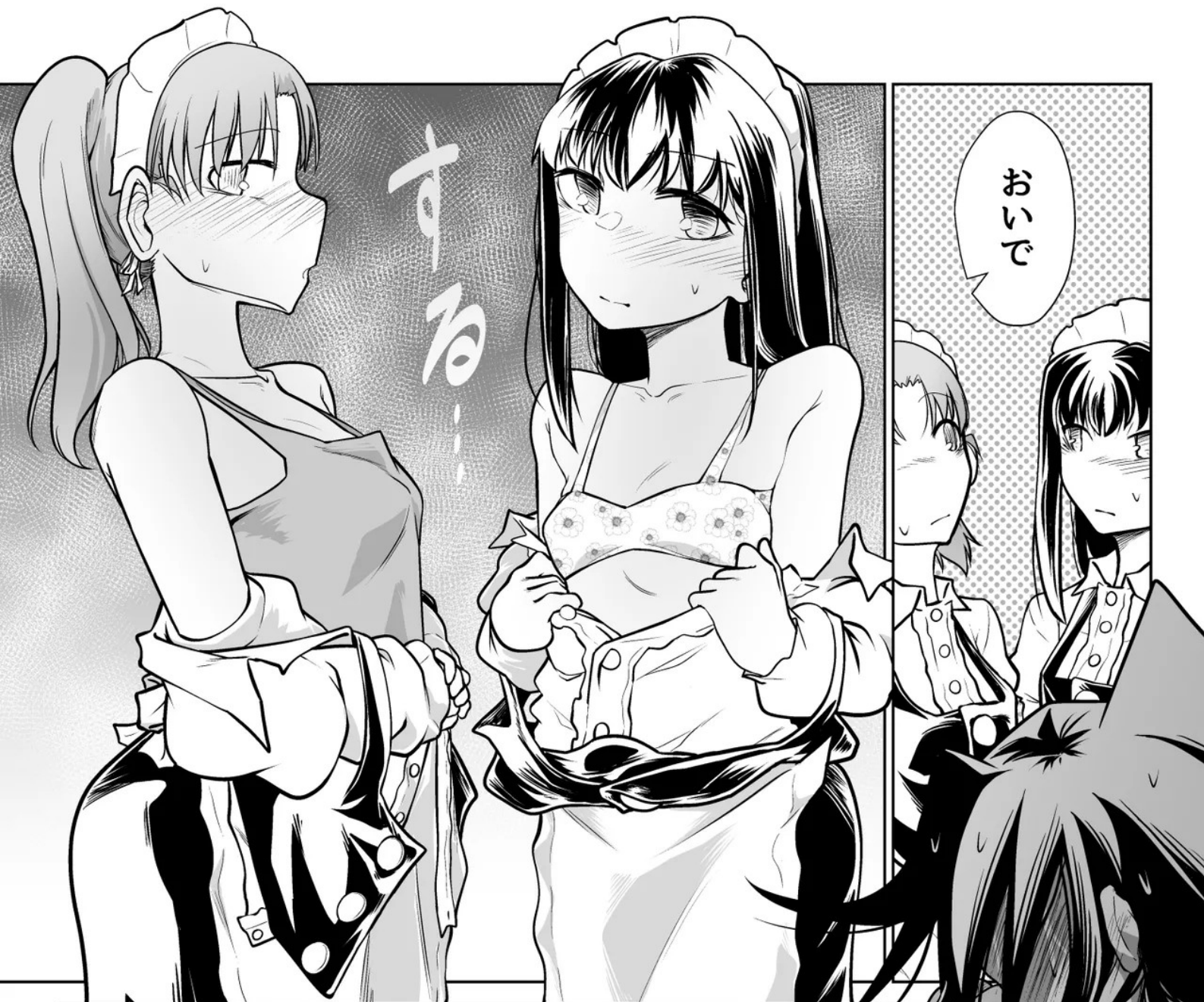
よく来きたね

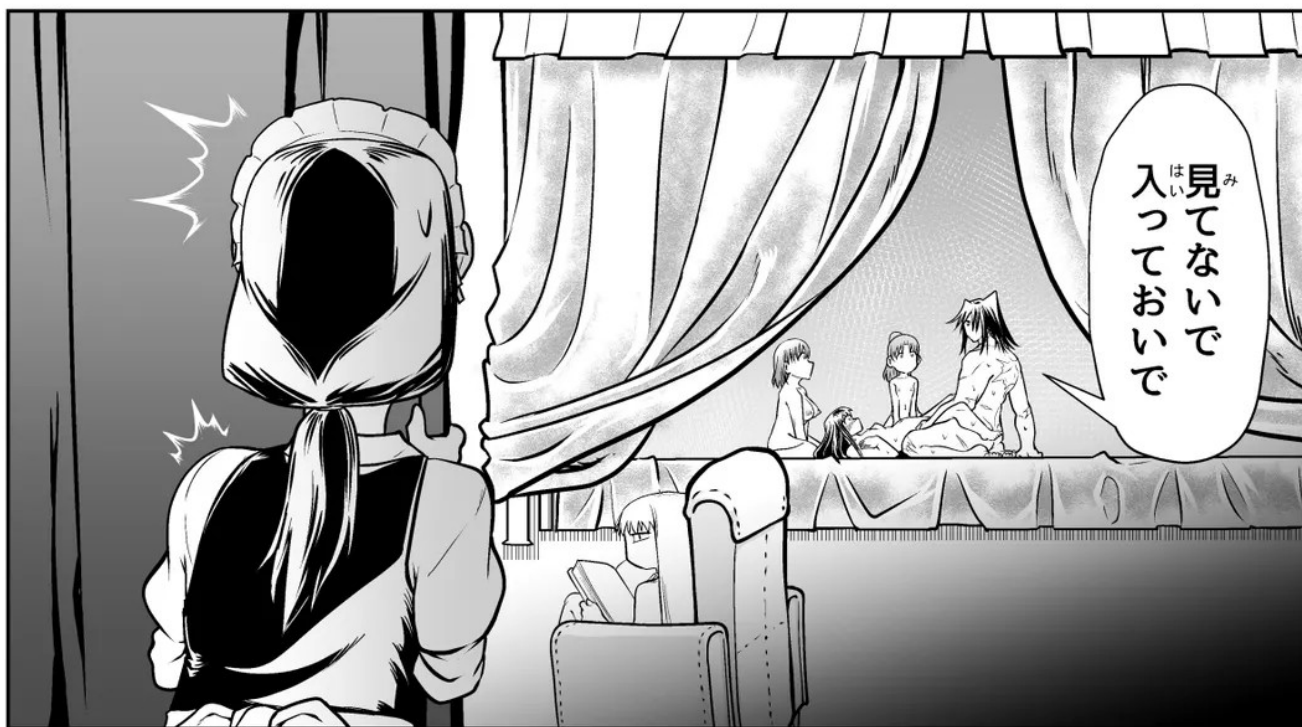


マリアーテの
予定日よていびが
近くてね
エメアは
夜更よふかかしを
しないように
してるんだ

ソーラは
そつとして
おいでくれ
交まざりたく
なったら
寄よってくる

今日きょうは
僕ぼくら四人よにんだ
気兼きかねは
いらいない





当時、ファツギン公国の
とある貴族の元で
使用人として
働いていた彼女は

その貴族の子を孕み
出産までの期間を
地下牢で過ごした



家名の傷を危惧した
貴族は子を産み落として
すぐのキビに一袋の金貨を渡し

親子の命と
貴族の秘密を
交換条件に
彼女を解放した

命が
助かっただけ
マシか…

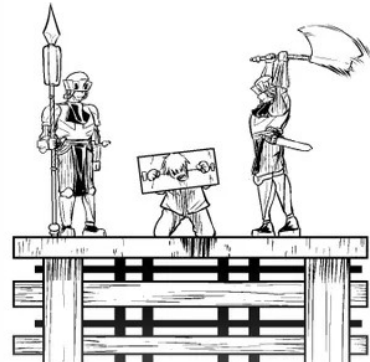
そう自分を納得
させるが
穴の開いた心は
埋まらなかった

「この子は良い主に
恵まれてほしい」

そう願うキビは
「遣い」という意味で
赤ん坊に「サヤ」と名付けた



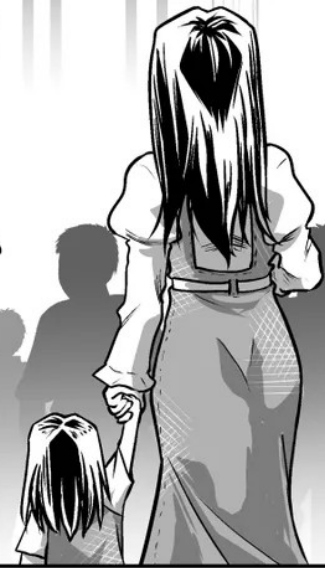
その5年後、自分を切り捨てた貴族が



魔族との密約を暴かれ没落するという知らせを受ける

あか
【炯眼】の勇者
モハメゼの息子

勇者の銘を授かる前の冒険者ゼフオントであった



う
濃んだ心を慰めた姿も知らぬ、この少年を

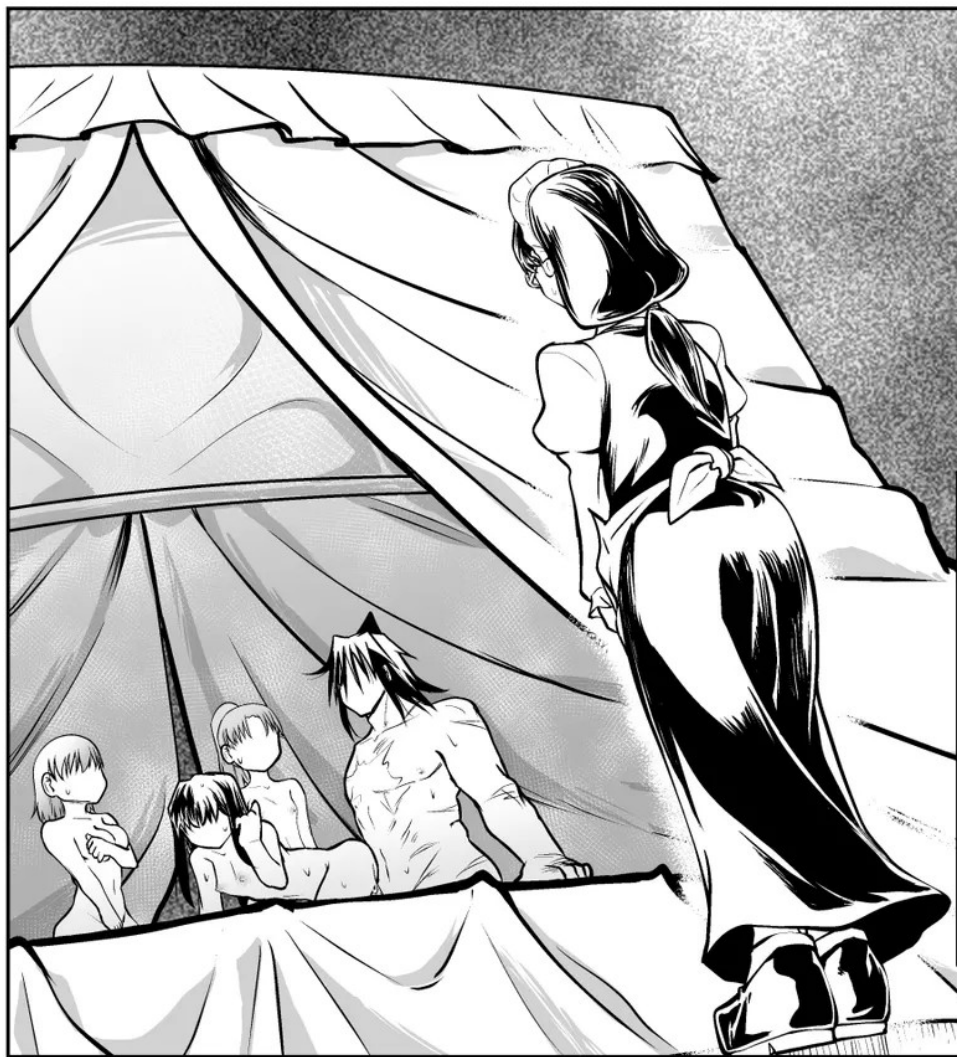
勇者様！

キビは胸の内で「勇者」と呼んだ



“仕えるべき人を見つけた”
そう心に決め、
すぐにフアーフレイへと
サヤと共に移り住む

ゼフオント達が
魔王を倒す
8年前の事だった



テーシー…？

意外だ…
彼女が覗きなんて

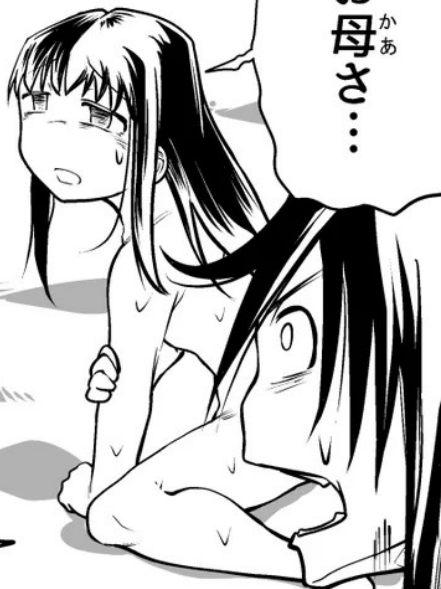
申し訳
ありません!!

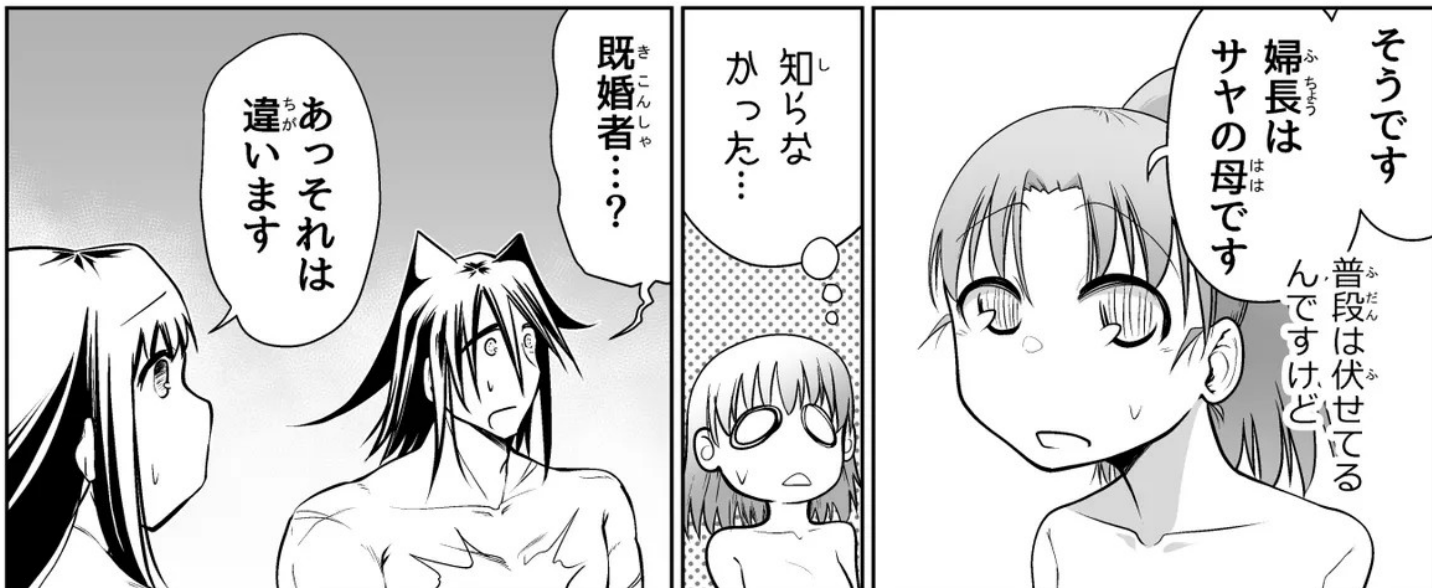
お邪魔をする
つもりは
無かったです!

ただ…この子達が
お役目を
全う出来るか
どうしても
気になってしまい…
魔が差して
しまいました!
本当に申し訳
ありません…

お母さ…

え!?





はい！
私たちが親子は
貴方様のおかげで
救われました！

その恩をお返しする為
サヤを育てました！

サヤだけでは
ありません！

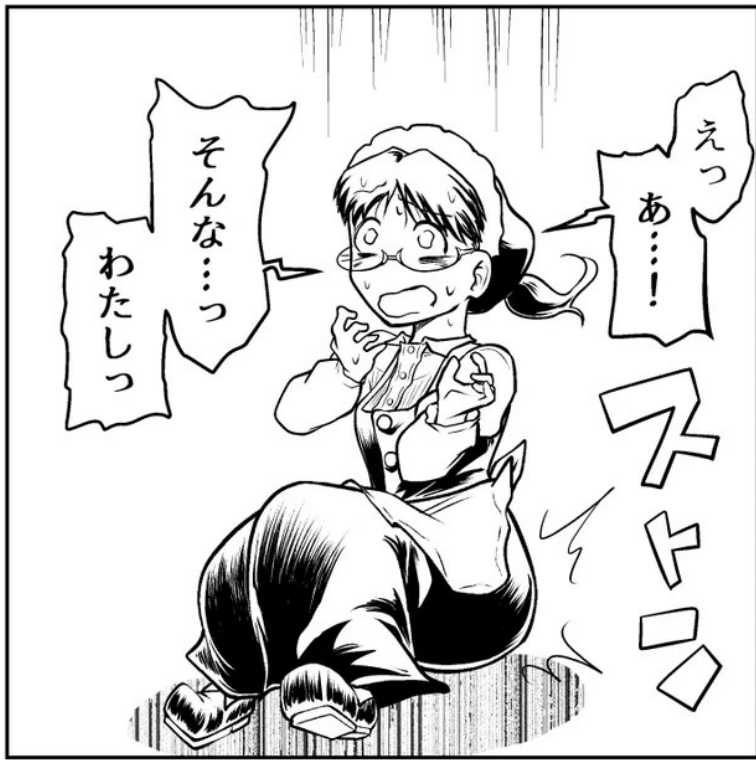
勇者様に満足頂けるよう
様々な若い女の子を見繕って――



彼女たちの人生を

何だと思ってるんだ！！

……へ？



そんな...っ
わたしっ

えっ
あ...!

ストロ
ストロ



罪悪感ざいあくかんも無いなのか

...君きみには

すく



!!

おばさんでー

もう若わかくない!!

だって!
だって私わたし!



彼女かのじよたち達だけに
無理むりをさせ

自分じぶんは何なにも
しないのか?

ずん...
ずん...
ずん...



僕が
言ったか



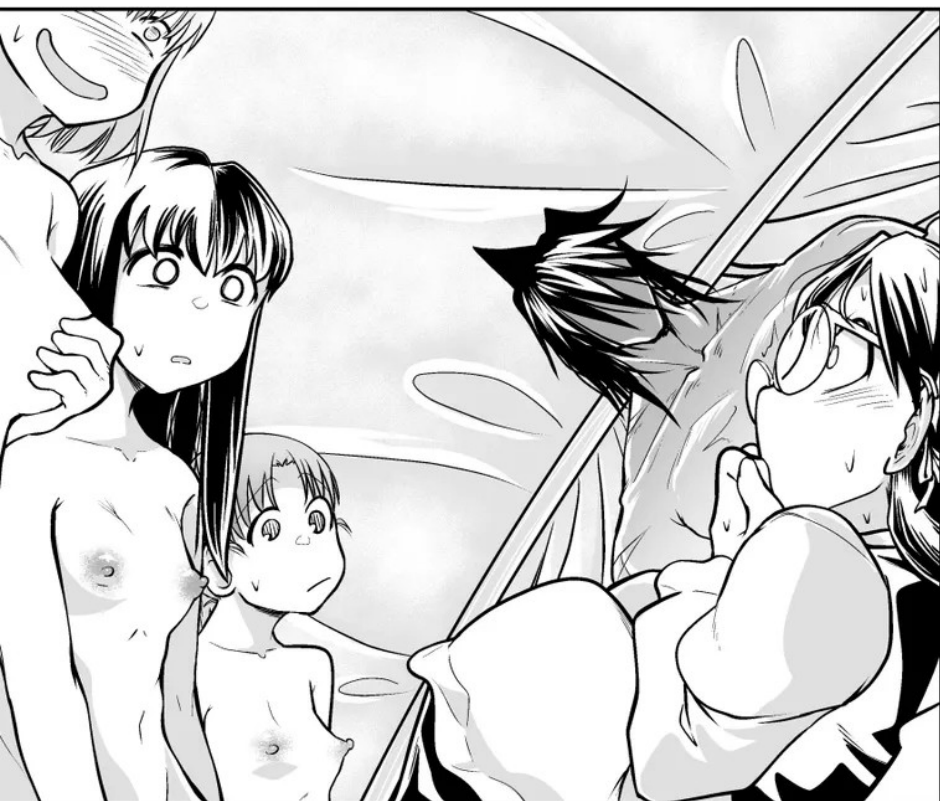
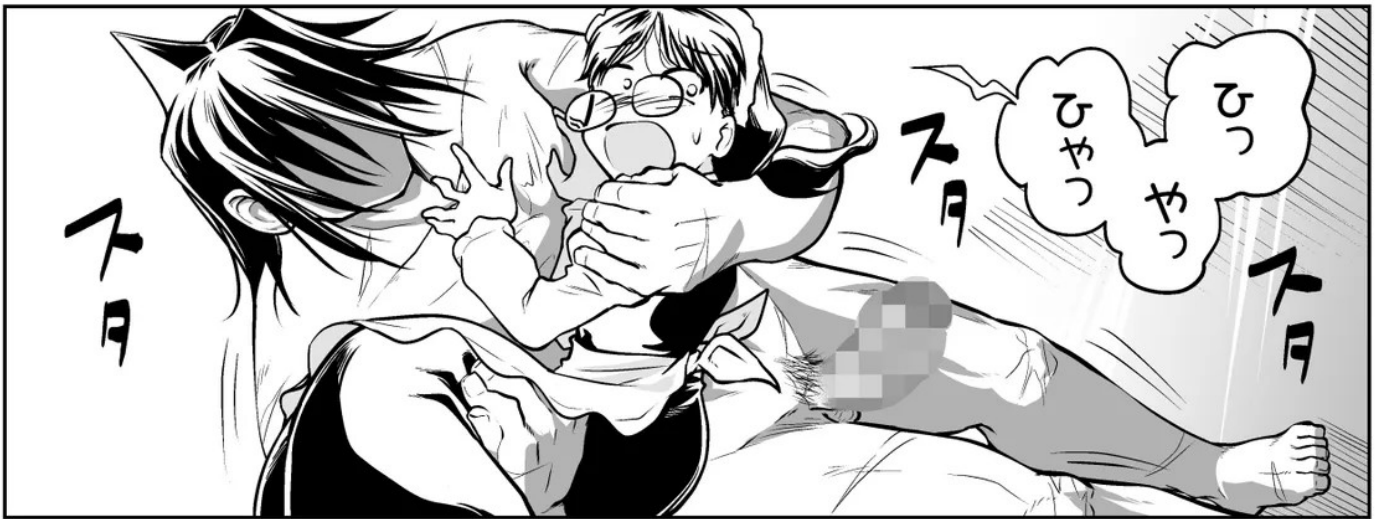
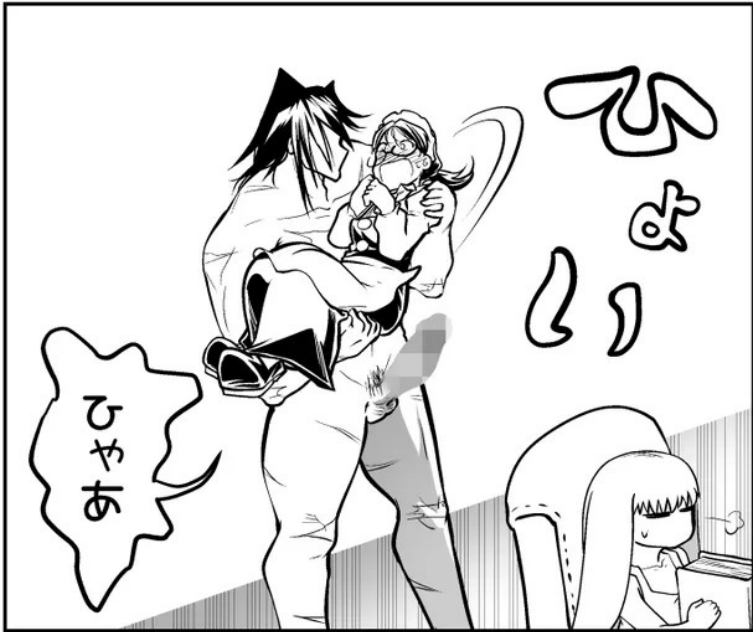
そんな事



あたしの...

身も心も
捧げます

ご主人様...♡



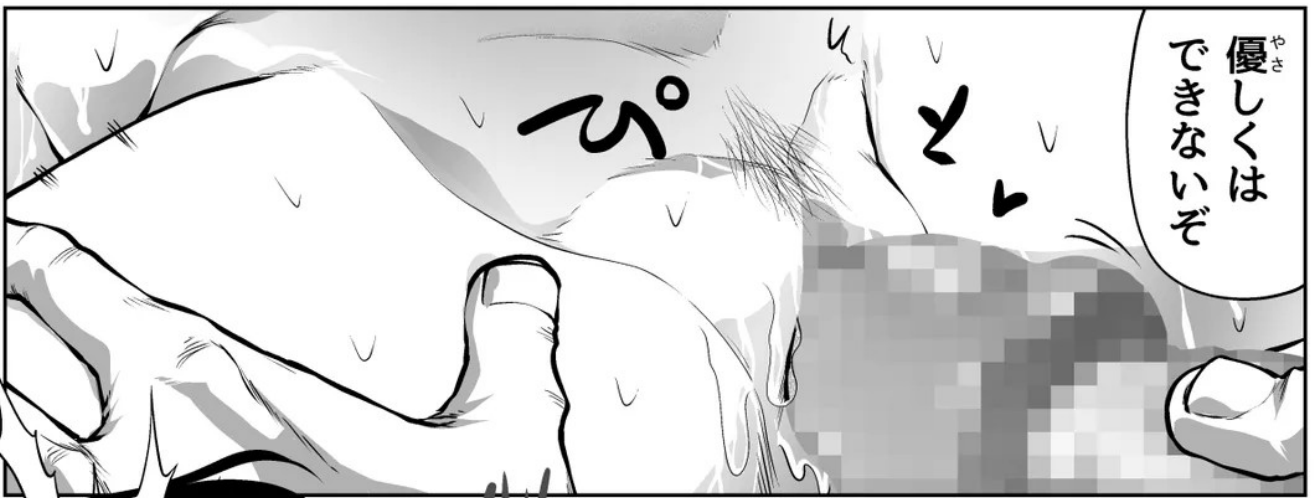




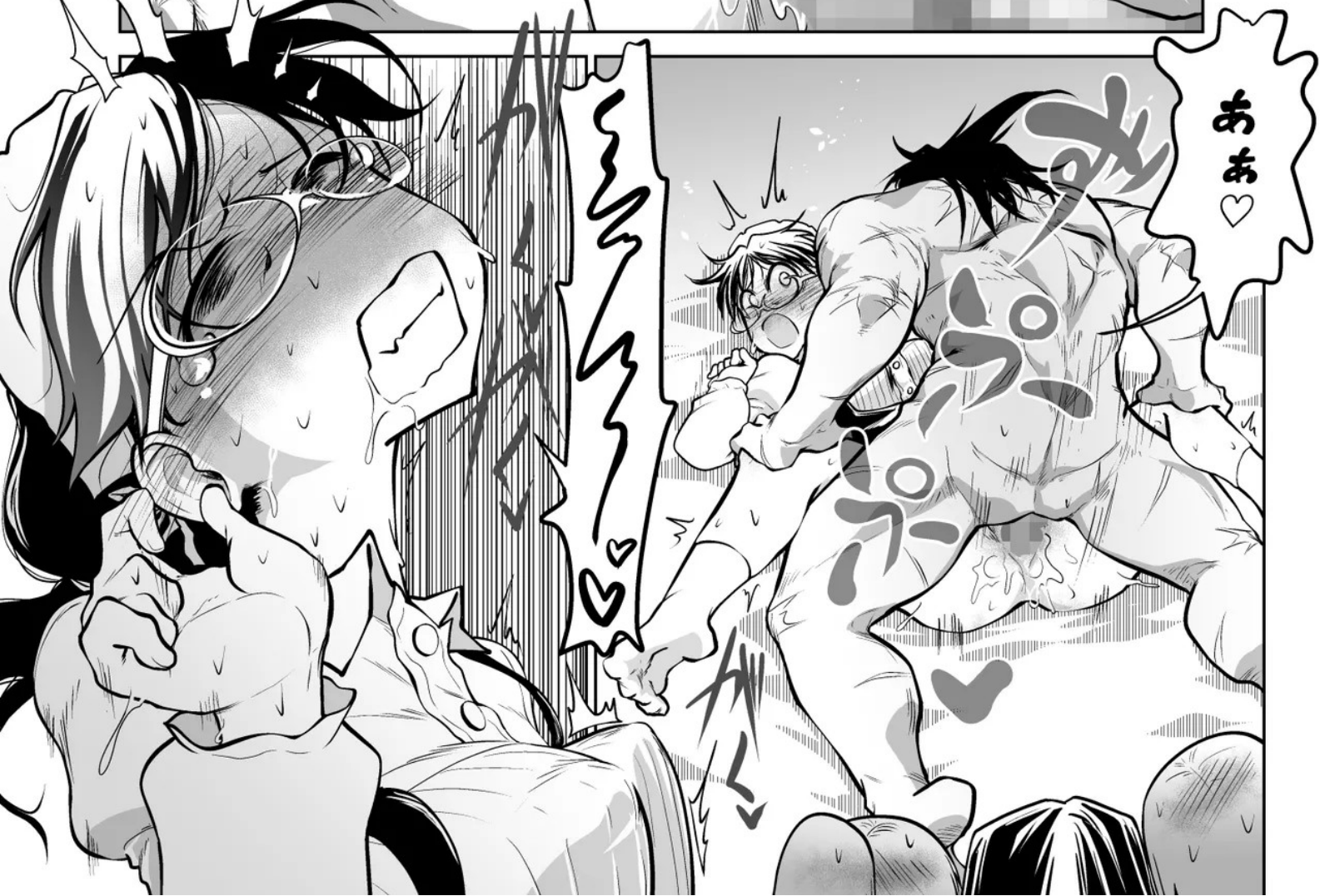
ごめんなさい……っ



期待してたね？



優しくは
できないぞ



ああ♡



うんうんうん

んんん

すずめ



ひゃあ



私 わたし
十数年ぶり じゅうすうねん
なのでえ な

しゅち しゅち
ご主人様 ごしゅじんさま あ



駄目 だめ だ

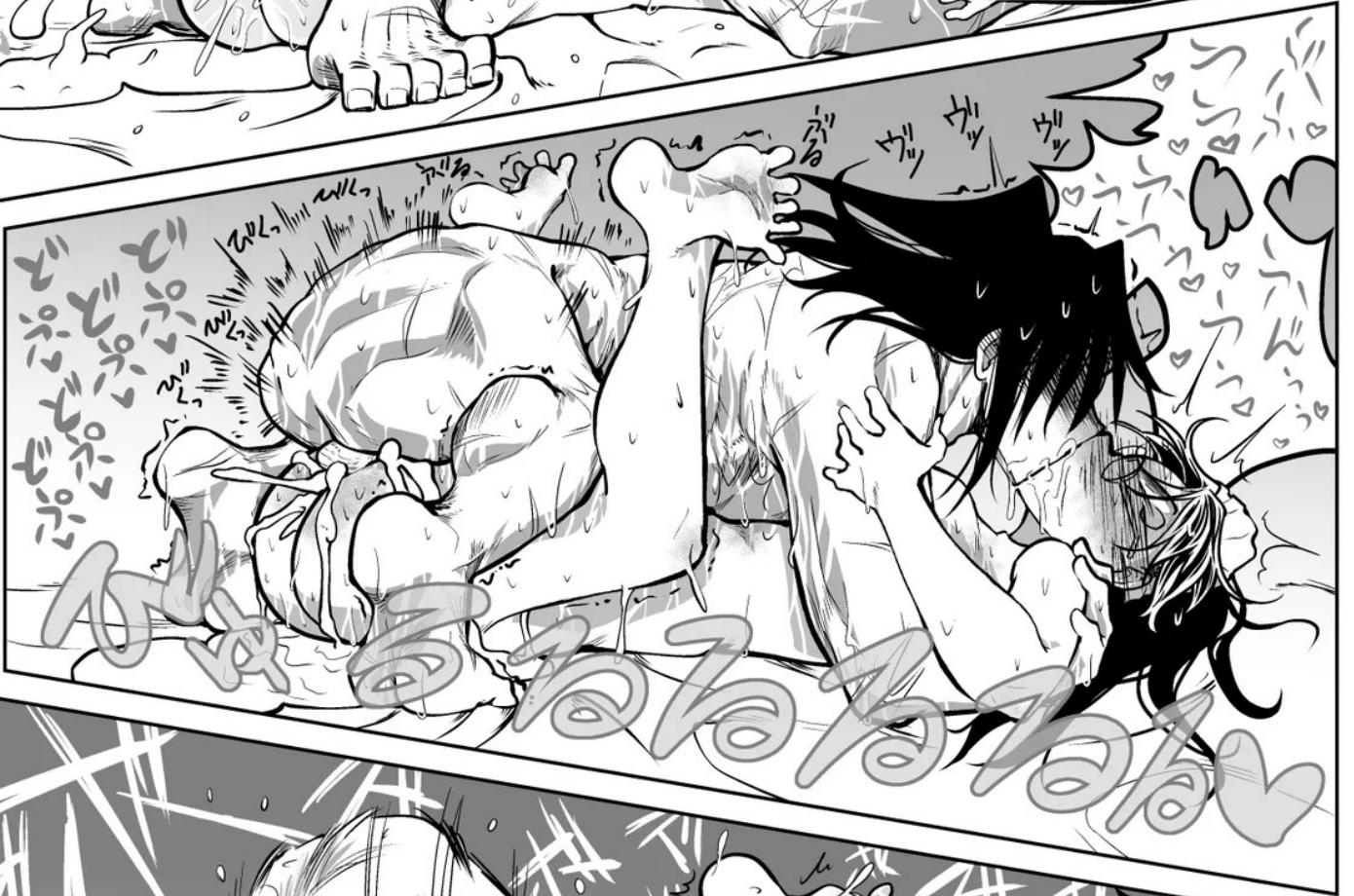
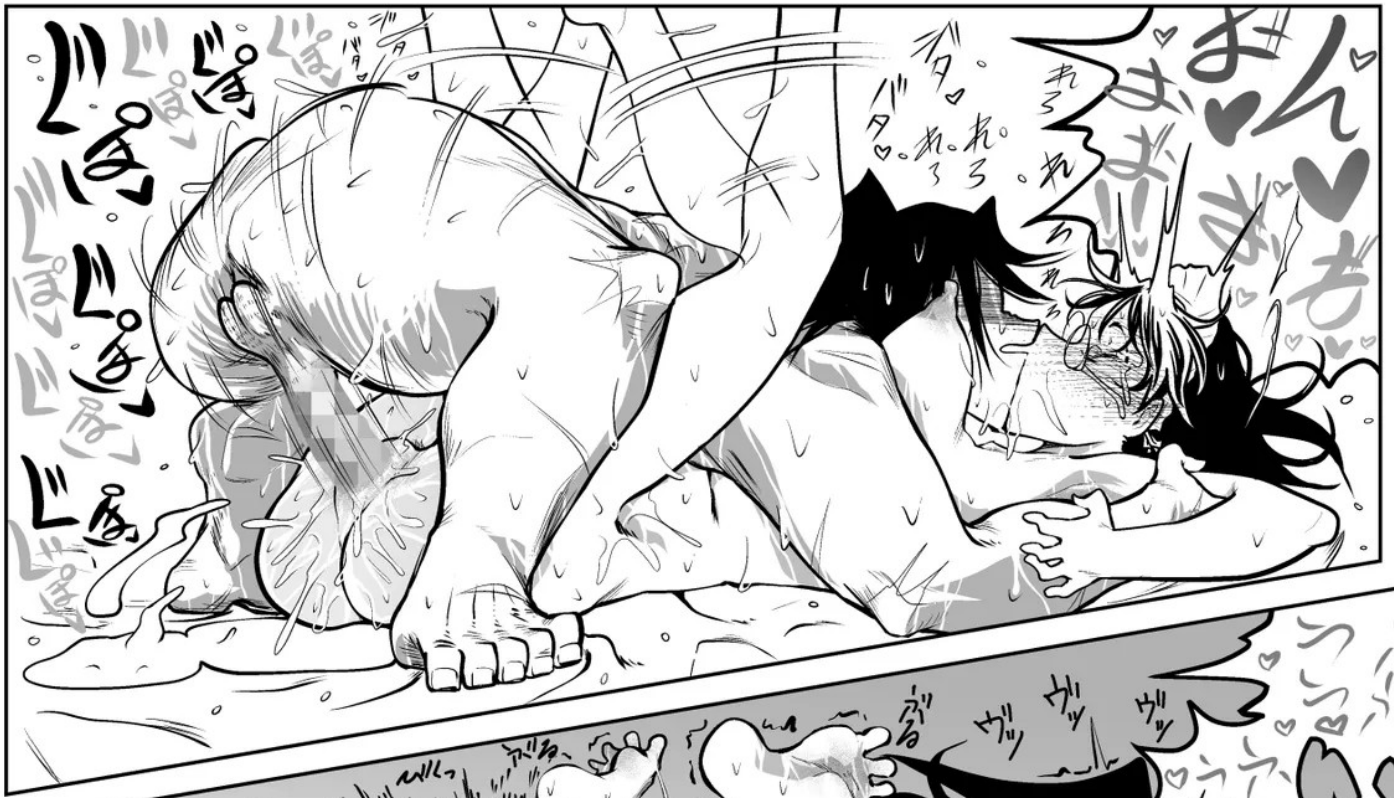


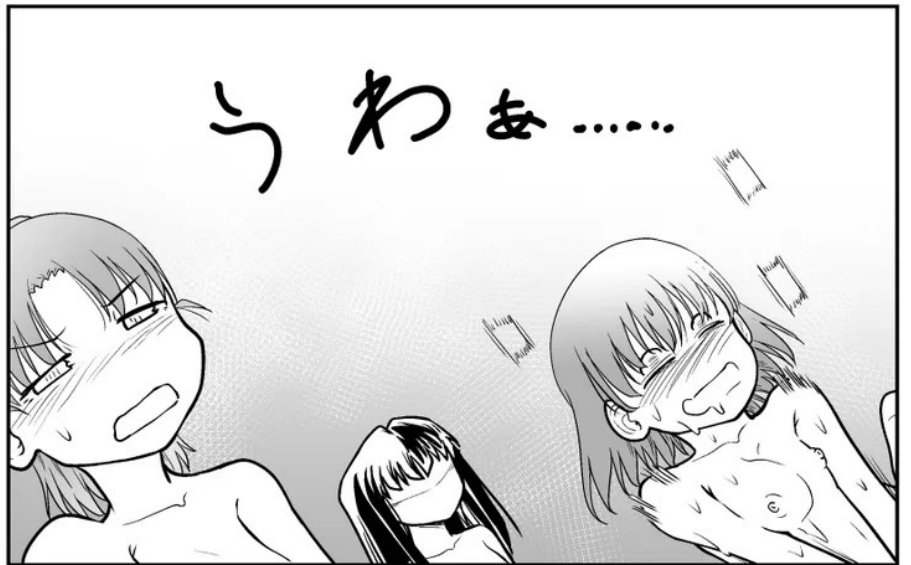
ひゃあ

ひゃあ









そうか……この人は

ほんとうは自分が
彼に抱かれたかったんだ……

でも自分に自信が
無かったから

だから私達を
差し出したんだ



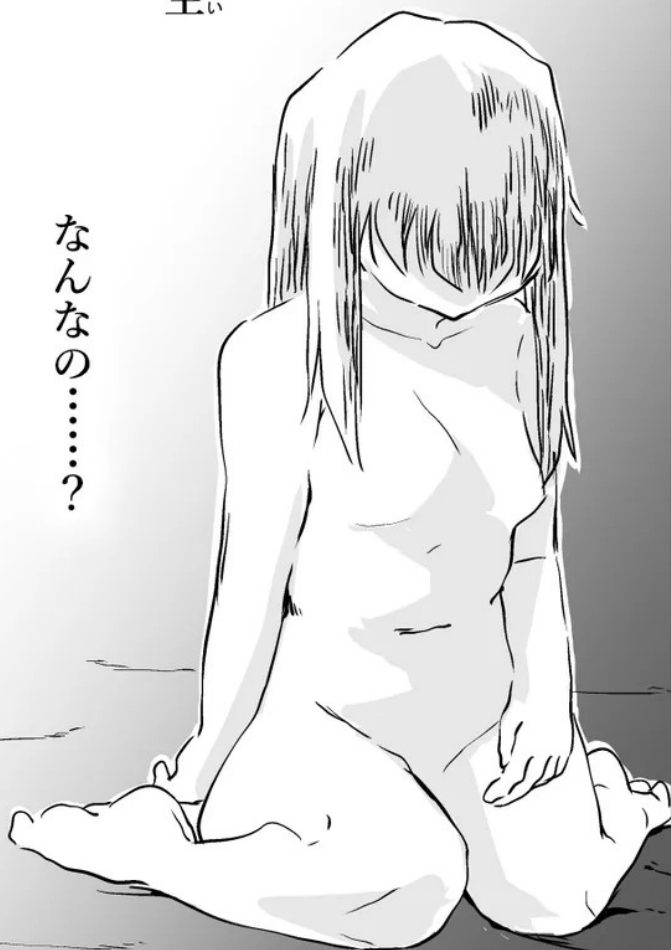
私の人生

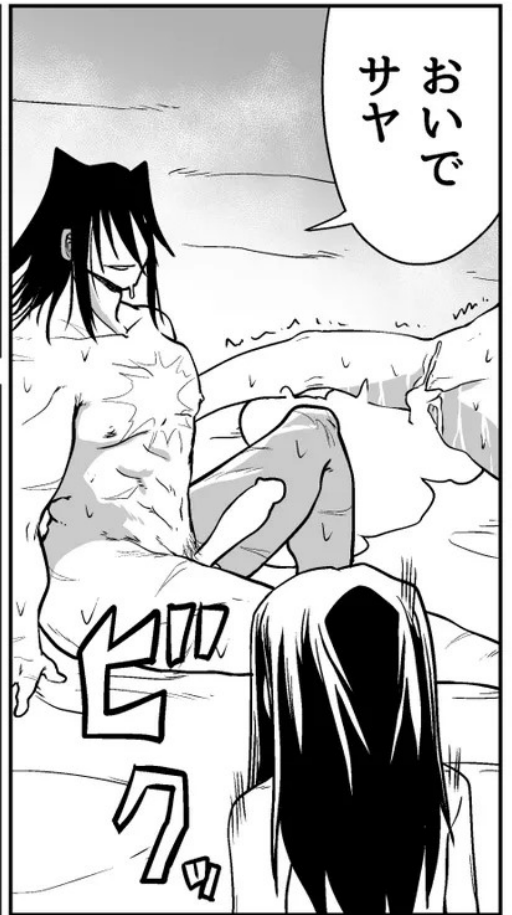
そして今更気付いた
私は

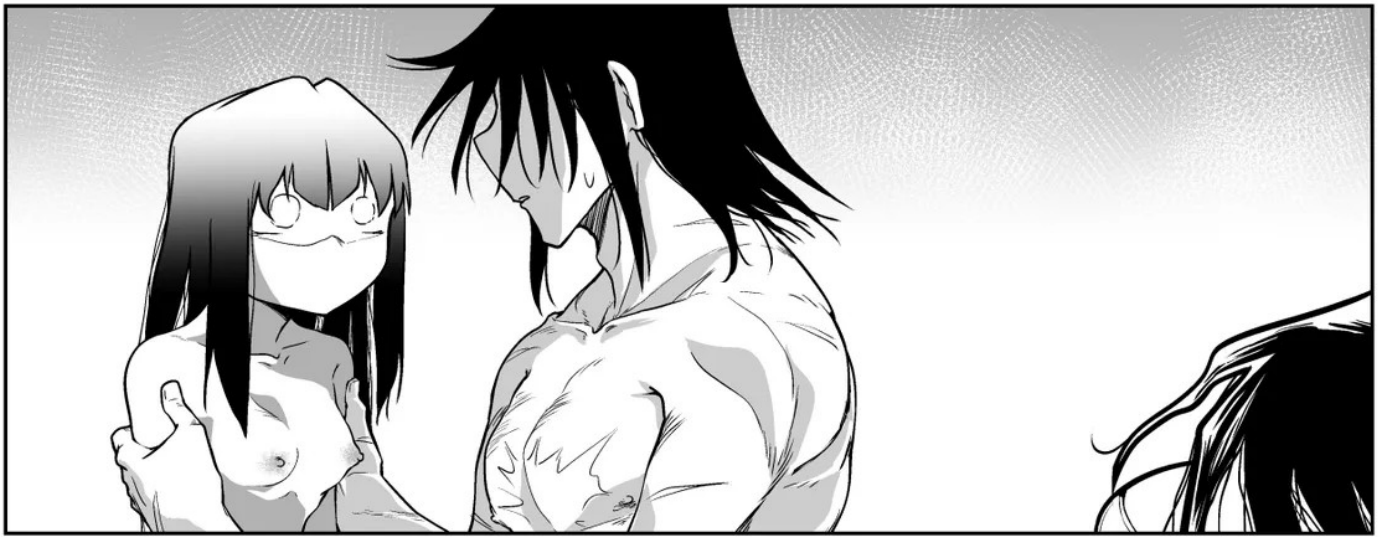
彼が好きだった
わけじゃない

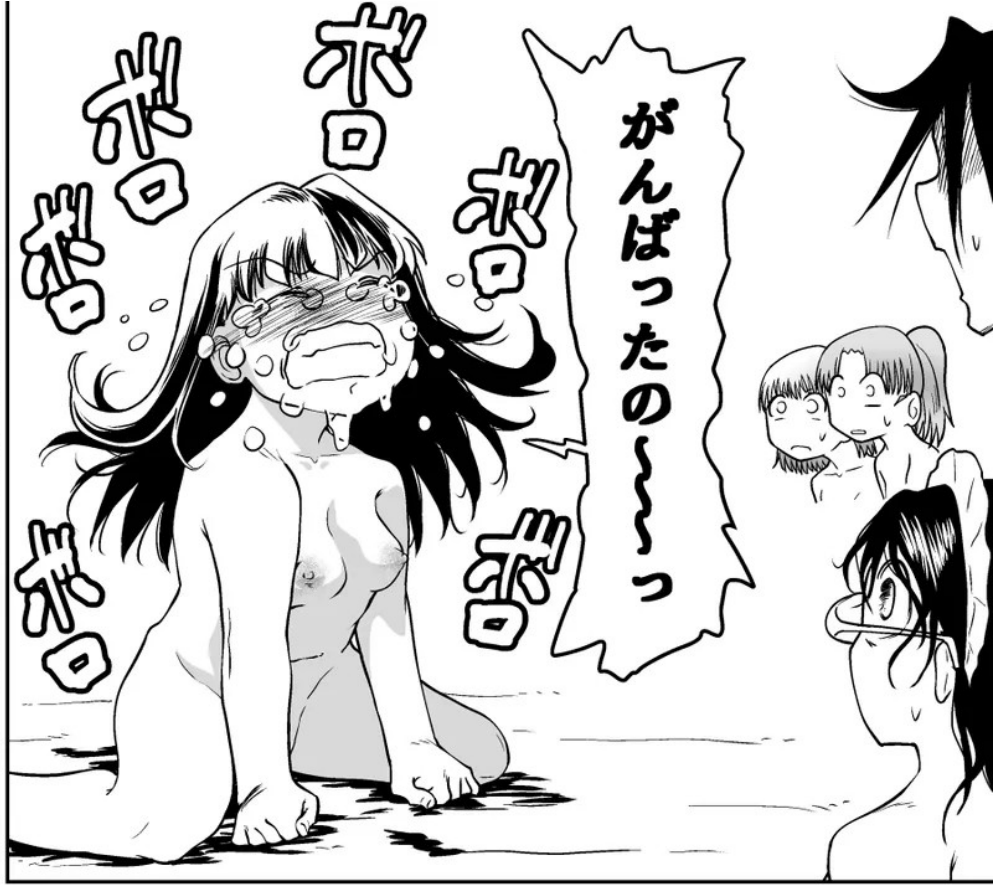
ただ母に
褒められ
たかっただけ

なんなの……？





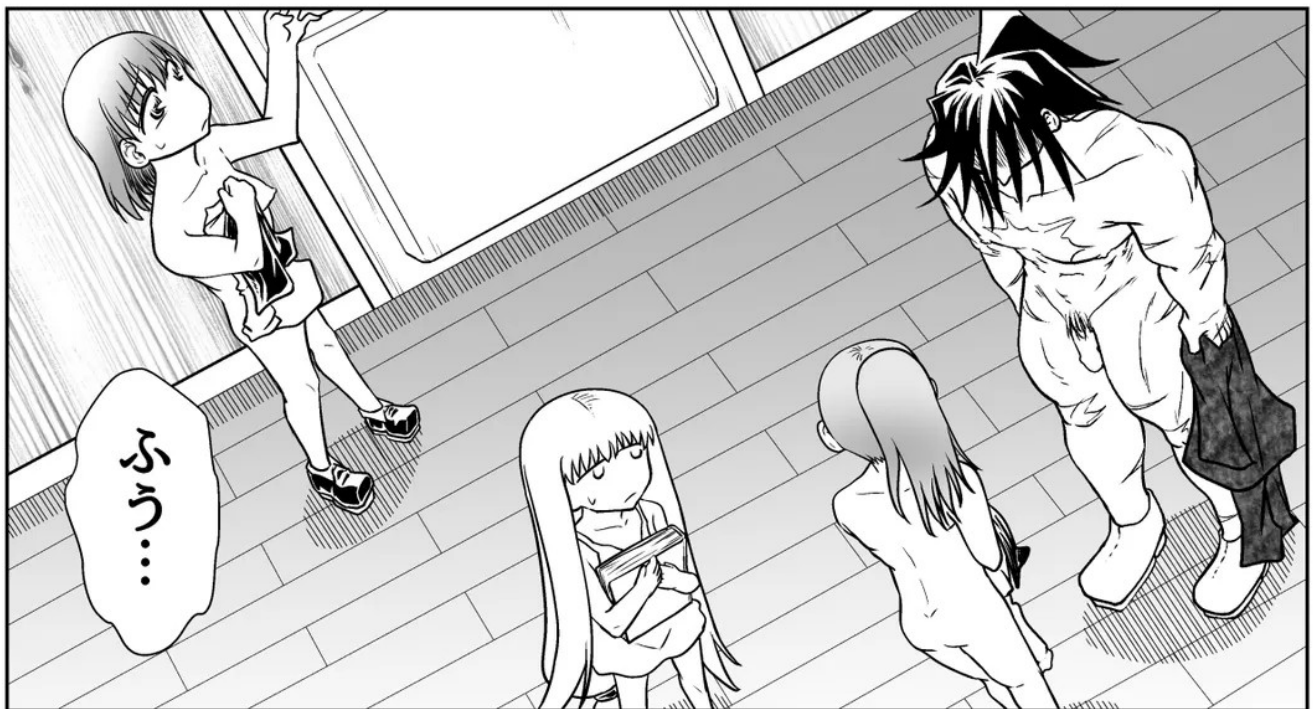




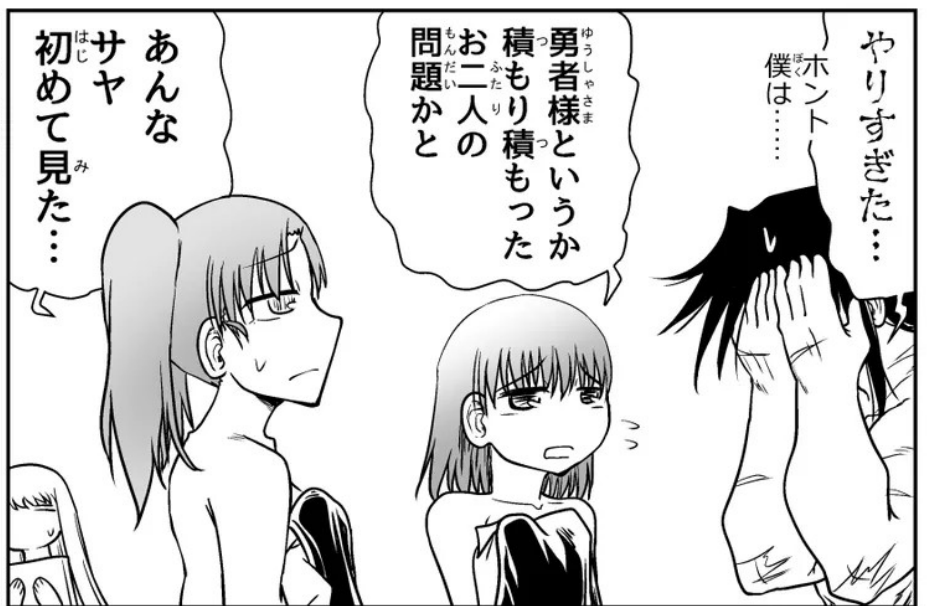
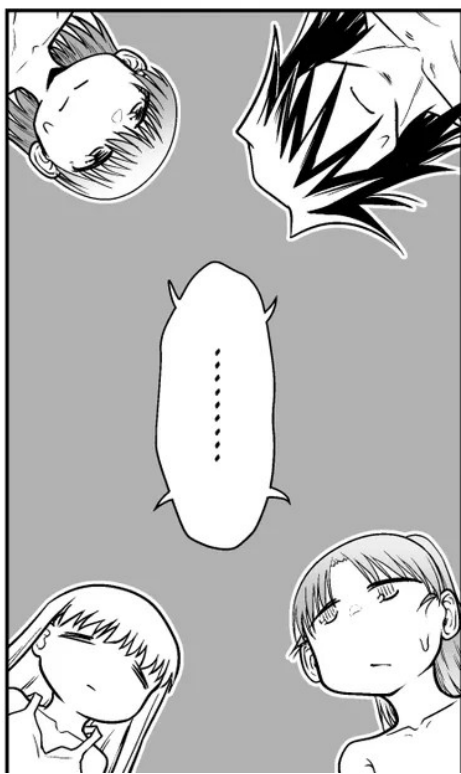


勇者様
ふたり
二人きりに
してあげよ

へあっ
あっ
うん



ふう...



やりすぎた...

ホント...
僕は...

勇者様というか
積もり積もった
お二人の
問題かと

あんな

サヤ
初めて見た...



後日

ご苦労様
サヤ

勇者様っ

ご機嫌麗しゆう
ございます!

今朝のご飯
美味しかったよ

あのチーズと
ミルクの
焼いたの

あれ?
いつもなら
立ち止まって
くれるのに

グラタンですね
調理法を取り寄せた
甲斐がありました

それで...

ちよっと時間ある?

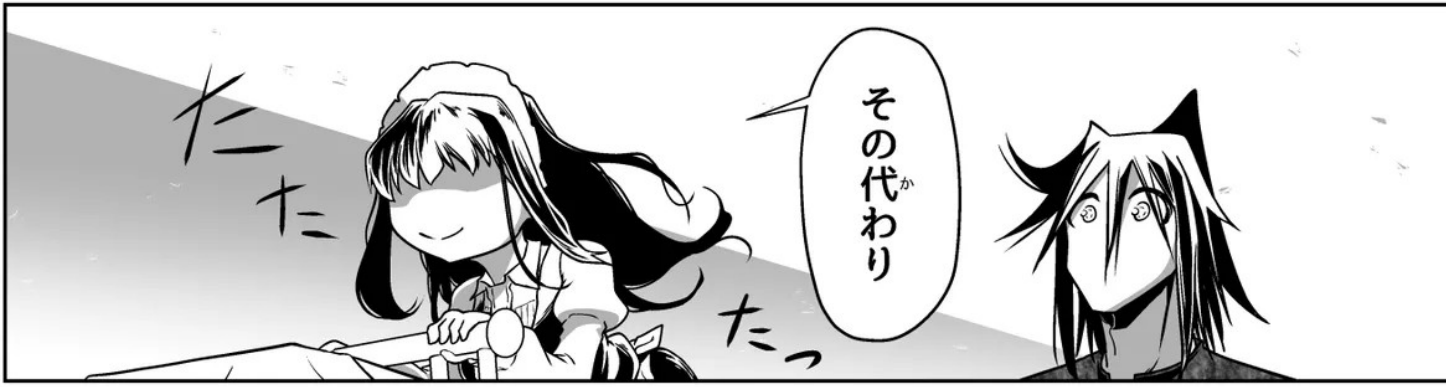
だくめです!

私
こう見えて
忙しいんですから

パイ

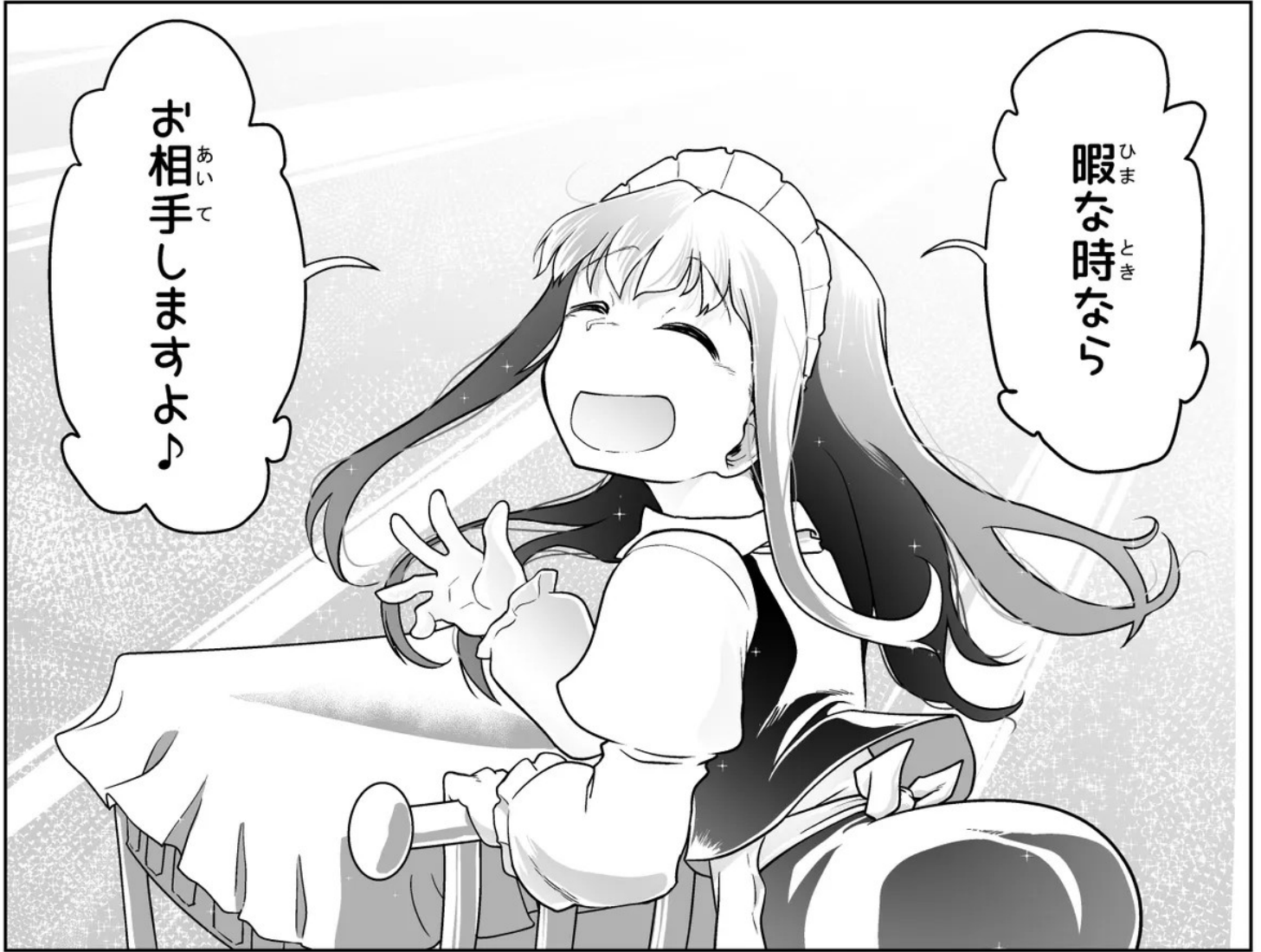
断られると
思ってたかったので
動揺してる

あはは
ほく何
言ってるんだろ
ごめん忘れて



た た た

その代わり



お相手しますよ

暇な時なら



そっか



救世の勇者のやり部屋
VI

奉公婦 婦長の娘

サヤニテシー

ファッギン公国領土西部の
国境付近に位置する、
ワックリバーにて出生。
幼児の頃合いはその隣町で
過ごし、その後ファーフレイ
へと移リスピン=リッツと
友人になる。

マグワインの館では最年少で
あるが、婦長に次ぐ立場で
奉公婦を纏め上げている。

美容に拘っていて、午後と
就寝前の日に二度、湯浴みを
するのが日課。可愛らしい
仕草の研究に余念がない。

ゼフォントと他の奉公婦への
態度が著しく違うので、同性からは
若干の苦手意識を持たれてる。

アビリティ

調理技Lv中級 清掃技Lv高級

洗濯技Lv高級 馬術Lv初級

美容 奉仕精神

情報処理 簿記 会計処理

公用人類語 山仙六語

出産回数0 膣射中毒



奉公婦 婦長

キビニテーシー

ファッギン公国領土西部の国境付近に位置する、ワックリバー出身。領主の元で侍女として働いていた。

領主の子を産み、ワックリバーを追放されてからは隣町の酒場で給仕として働きながらサヤを育てる。

領主である貴族とは真剣に関係を考えていて、墮胎か幽閉かを迫られ産む選択を取った。それは彼女の深い愛の証明だったが、愛する者に裏切られ行き場を失った情愛は歪んでいく。

自分の代わりに報復を遂げたゼフォントを神聖視している。
ゼフォント達が拠点にしていたファーフレイへと移り住み、機会を窺っていた。
我が身と、娘を捧げる、その機会を——。

アビリティ

調理技Lv高級 清掃技Lv高級

洗濯技Lv高級 馬術Lv中級

給仕Lv高級

情報処理 簿記 会計処理

公用人類語 山仙六語

獣森語

奉仕精神 手淫Lv中級

口淫Lv中級 騎乗位Lv中級

出産回数1 精液中毒

膣射中毒 肛門中毒





午前中は
決まった
子としか
シチャ駄目
だって？



はひ…
ご主人様の…
じゅる♡
凄いのので…♡

通常の業務に…んっ♡
影響が…れる♡
ありまひて…れる♡



ぬ
た た た
た た



午後でしたら
どの子とも
遊んで頂いて
構わないの
ですが…
ちゅぽ
ちゅぽ



お好きにならず
構いません♡

あ

この部屋の子には
影響の薄い仕事を
振り分けますので

はひ♡

それで
この地下の奥の部屋に
寝台を置いたんだね



ちゅぽい



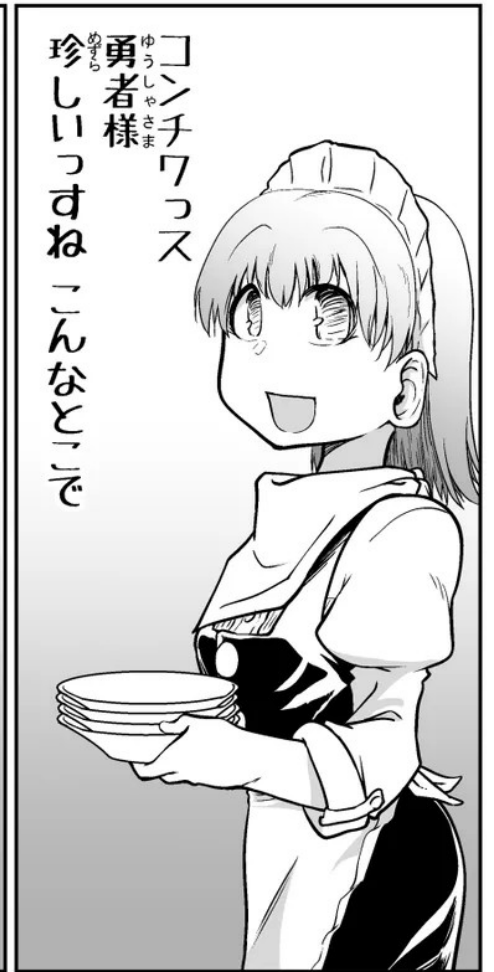
あ♡



あひ♡
あひ♡

あひ♡
あひ♡
あひ♡
あひ♡
あひ♡
あひ♡
あひ♡
あひ♡
あひ♡
あひ♡







ゆうしゃ
勇者さま…？

えいっ

えいっ

ほうこう ふ ドワーフ
奉公婦 錠人
ノーン=ダックレー



おや？

ガス

ガス

ガス



わたしっ8年ねんも
マクイン
館で働いてるけどっ

こんな所ところ独りひとで
掃除そうじしてるなんて
言われた事ことなくてっ

ひっ



どうしたの？
そんな泣き腫はらして
お酒さけなんて飲んで

づ〜



ん？
ここに居いるって事ことは
ノーンが今日きょうの
女の子おんなか？ まいっただな
したことないぞ…？

いやそんな事ことより
泣き止やませないと…！！



僕のせいさく!!

私クビなのかなあ〜!??

行くところ無いよあ〜!!

あん



あ〜そうなんだよ
よかった〜



ゴマカシ
ゴマカシ

モイヤ
サヤヤスピン

—というわけだね
君たち奉公婦には
この部屋で僕の話し相手に
なってもらってるんだ

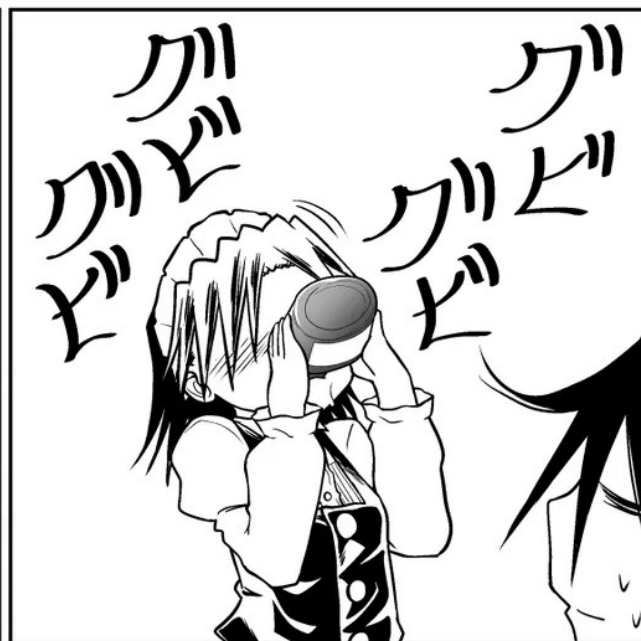


ガガガ
ガガガ
ガガガ

もうダメだ…

そーだね

じゃあ私
仕事に
お酒飲んでる
ヤバい奴ですね



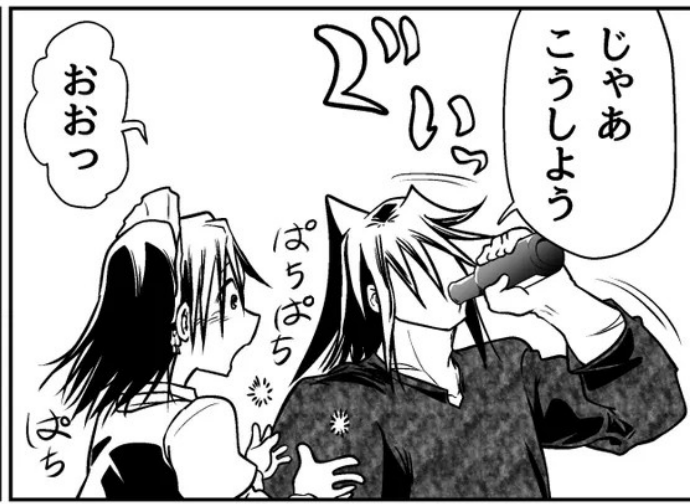
ガガガ
ガガガ
ガガガ



それなら
まるおさ
丸く収まる

いっはっ

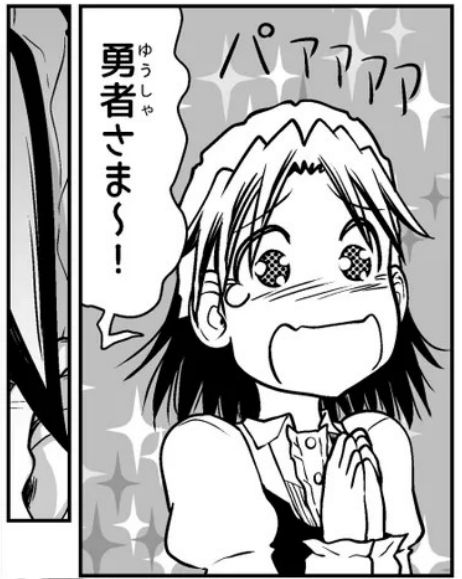
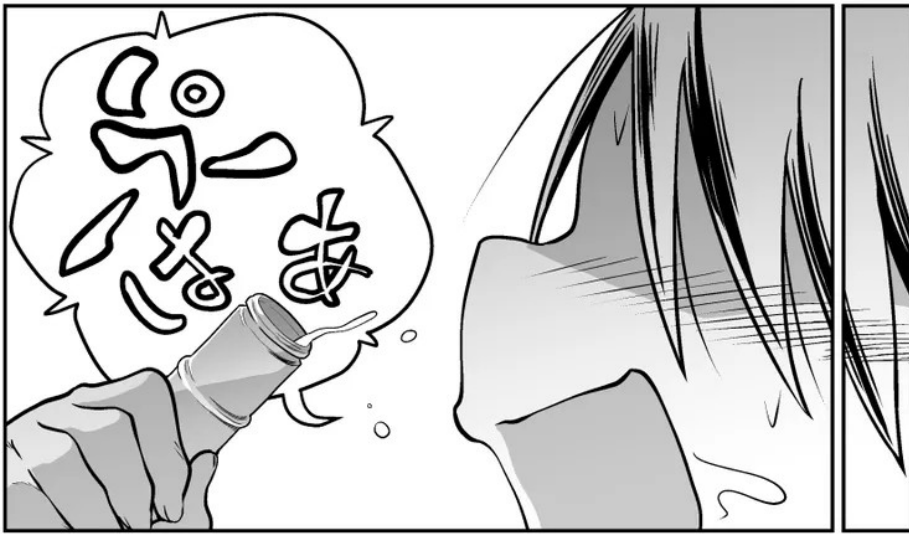
ノーンは僕に
付き合っ
てお酒を飲んだ



おおっ

ぽちぽち

じゃあ
こうしよう



勇者さま〜!

パアアア



血生臭いのは
ちよっと…

冒険者には
ならなかった
のかい?

私なんて
どうでも
いいんよ
だから家も国も
あん出で
やったのさあ

そんですあ
父ちゃんも母ちゃんも
弟のことばっかですあ

せろ

せろ



うーん…
たぶん親御さんが
君の事をどうでもいい、
というのは誤解だよ

たぶん…余裕が
無かっただけさ



……見も
しないで
わかったこと
言いますね

わかるさ
一応人の親だから



いつだって
遠く離れた
子供たちを
想ってる
取り巻く環境や
状況のせいで
離れ離れで

いつか子供たちは
僕に憎しみを
抱くかも
しれないけれど

それでも
幸せを
願ってる

大切な人が
いるんだ

……

彼女が
僕の大切なモノを
奪ったと誤解してる

本当は僕は
彼女から全てを
与えてもらったのに



想いは伝えなきや
誤解が起こる

でも環境や
状況のせいで
伝える事も
できない

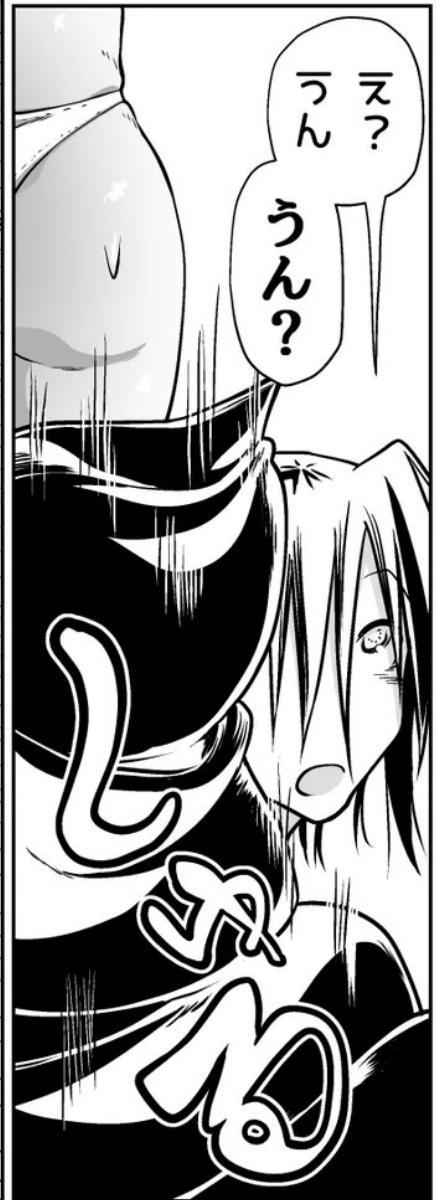
なかなか
難しいよね



……



ええ!?



ええ?
うん?
うん?



モイヤサヤヤ
スピソより

私^{わたし}の方が
上手^{うま}く
できます!!



しなくて
いいよ!?

大丈夫だから！
すげいから！

わ~~~~!!
ちよつとちよつと！

ちからつよ
力強っ!?



そんな！
仕事でする
なんて……



グイ



仕事じゃなければ

いいのか？



僕のかは
彼女達に

何も返して
あげられないの？



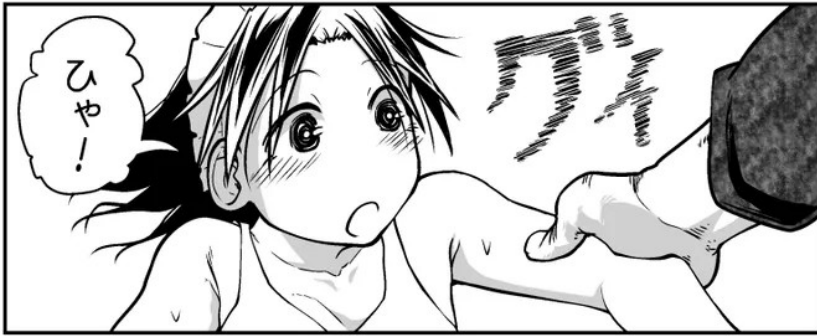
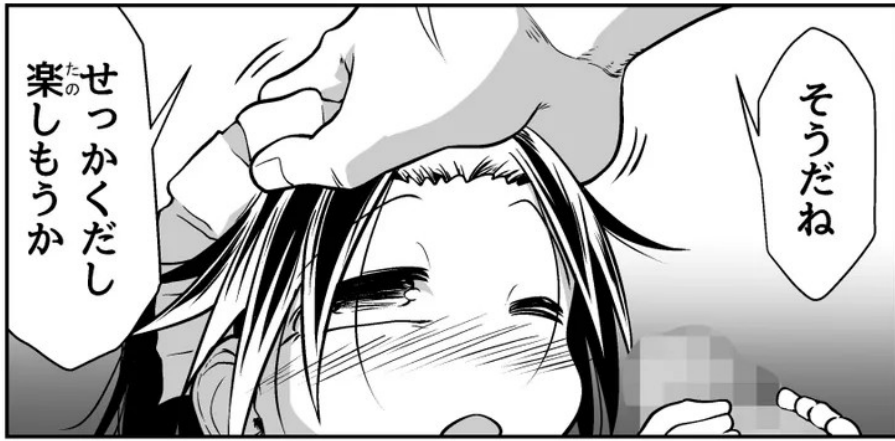
おっ
おっ
おっ

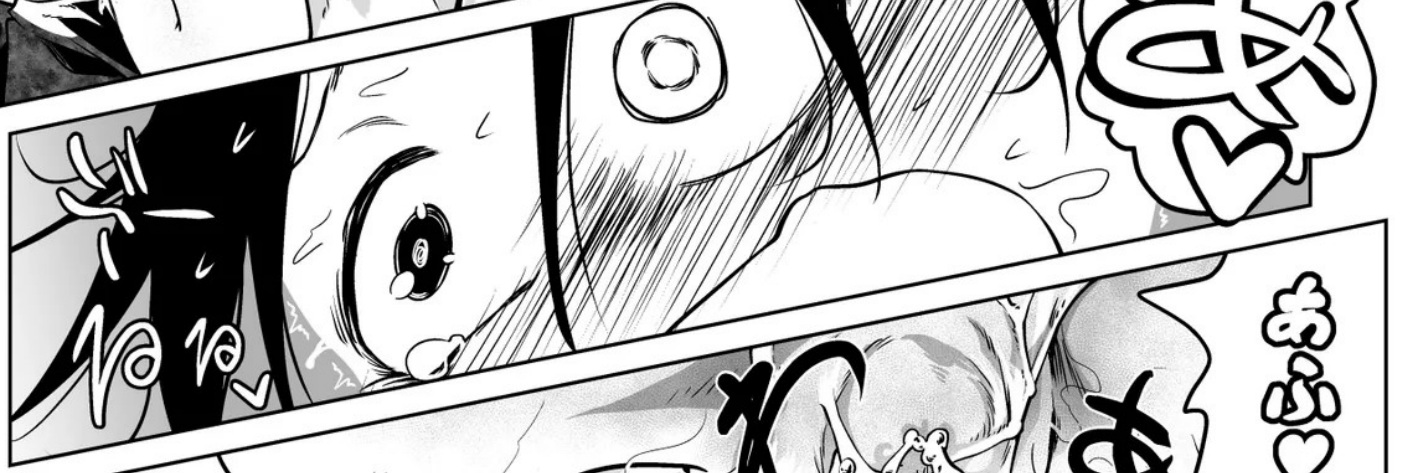
あっ



おっきい……

すーり……

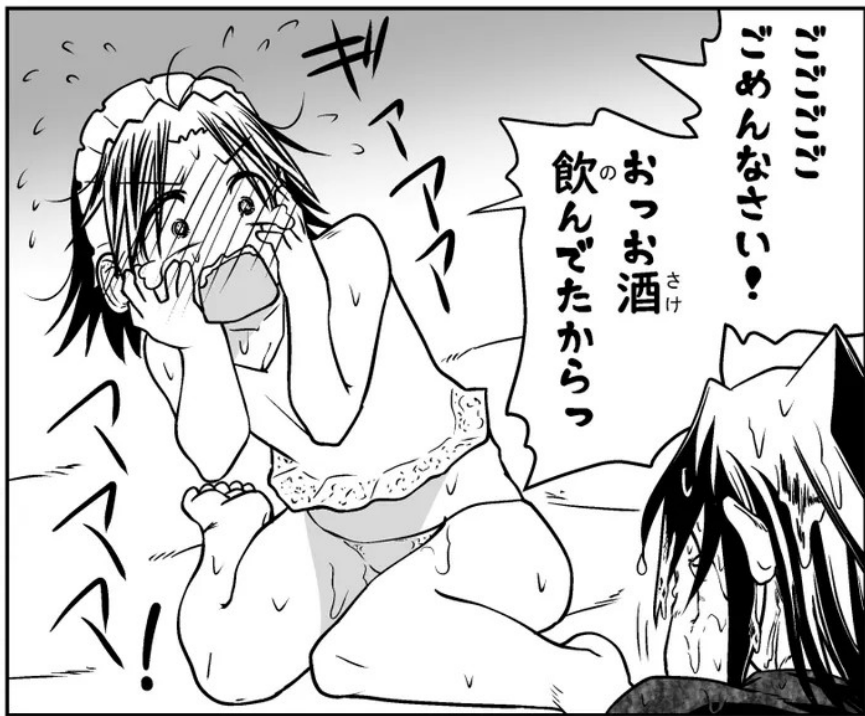






気にする事ないよ

いっ



ごめんなさい！

おっお酒飲んでたからっ

アアアア！



いっぱい感じてよ
その方がお互い

嬉しい

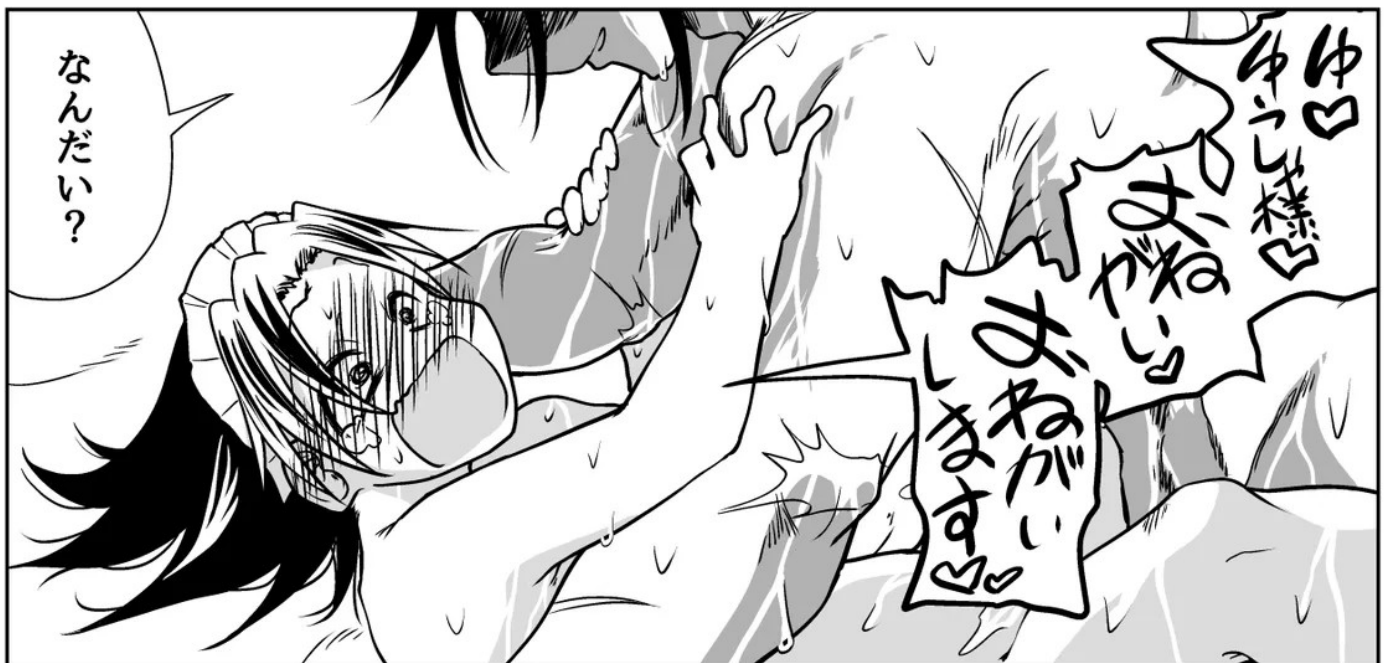
みち

ツツツ

いっ







絞めながら
首を絞める！



え？

だいたいようぶ！
頑丈だから

絶対
すごいから！

えっ

待つ

おねがい！

ちよ



ちからい
力入れてえ♡



きんきん！



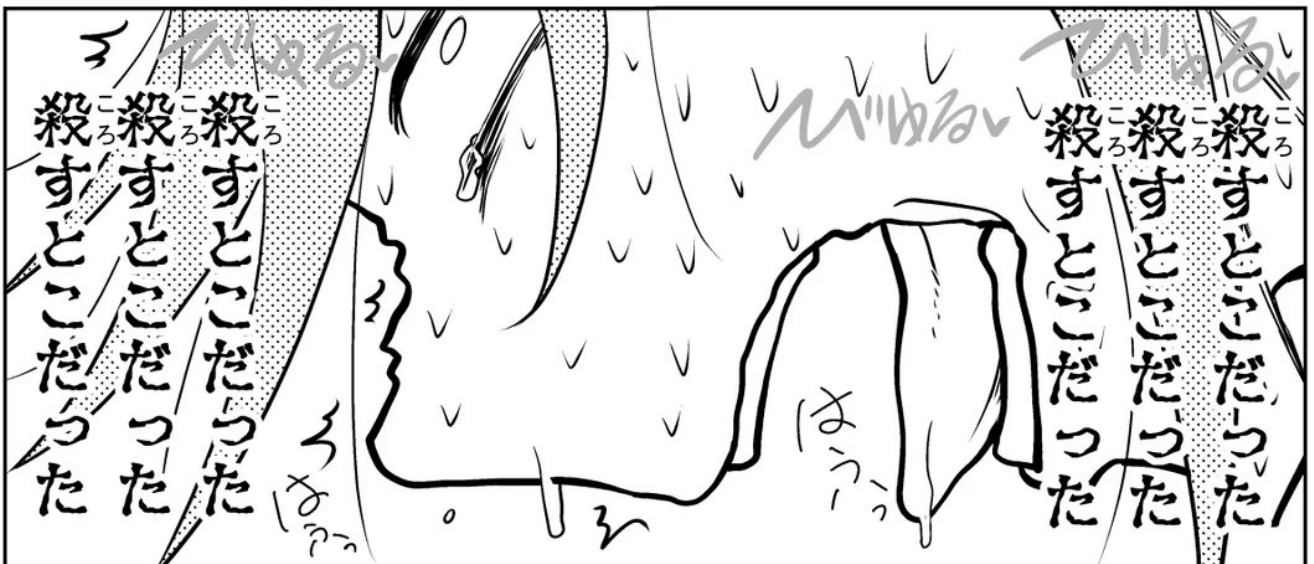


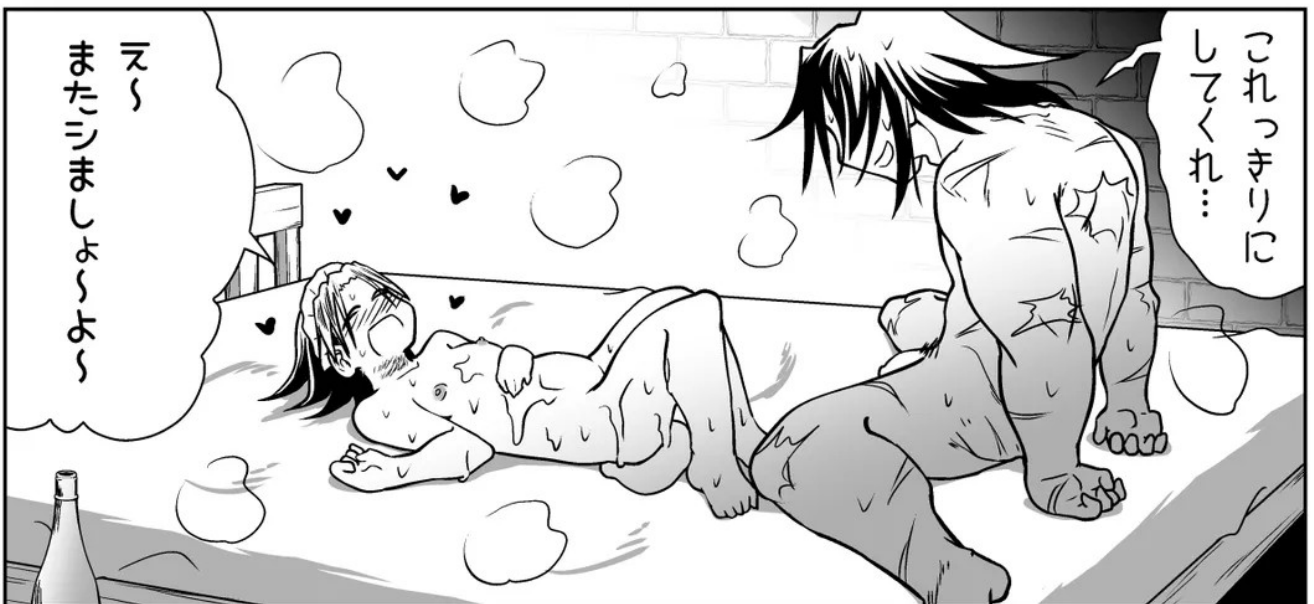




うおおお止まらんツ







ええ
またしましよらよら

救世の勇者のやり部屋
VI

奉公婦 3年目

ノーンニダツクレー

鏈人国メカノフェア出身。23歳。
家族との喧嘩を切っ掛けに家出、多くの
人種が定住しているファッギン公国へと
渡ってきた。

マグワインへ奉公に来る以前は苦勞を
していたようで、職と住まいを転々と
根無し草をしていた。
商隊の小間使いという名目の性奴隷の
経験もある。

行く先々で男達から粗雑に扱われ、次第に
ノーンは被虐嗜好に目覚めていく。
しかしマグワインで出会った友人達の
会話の中で、その嗜好が異常なもの
だと気づき、彼女はその本性を
隠すようになった。

鏈人なだけにお酒が大の好物。
婦長のキビとは呑み友達である。

アビリティ

調理技Lv中級 清掃技Lv初級

洗濯技Lv初級 給仕Lv初級

酒調合術Lv高級 酒豪

公用人類語(リスニングのみ)

山仙六語

騎乗位Lv中級

手淫Lv中級 口淫Lv中級

出産回数0 被虐性愛

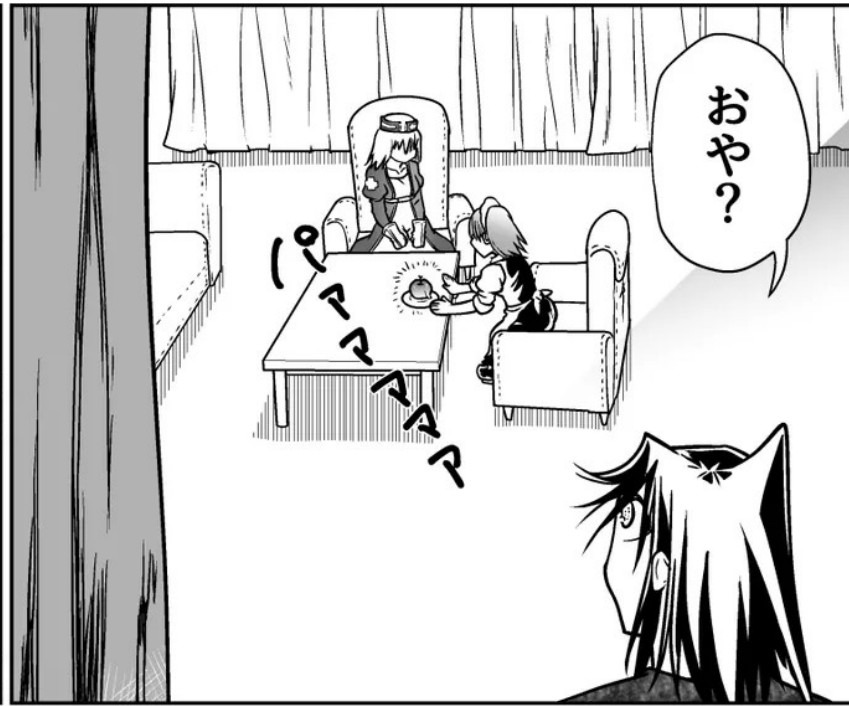
精飲中毒 膣射中毒





勇者様
ゆうしやさま
こんにちはわっす

何してる
なに
んだい？

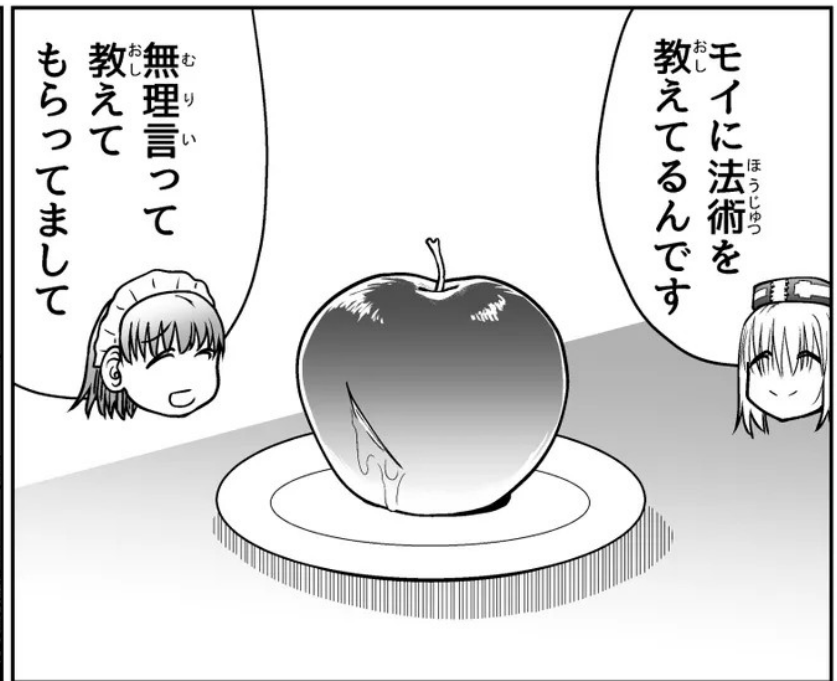


おや？



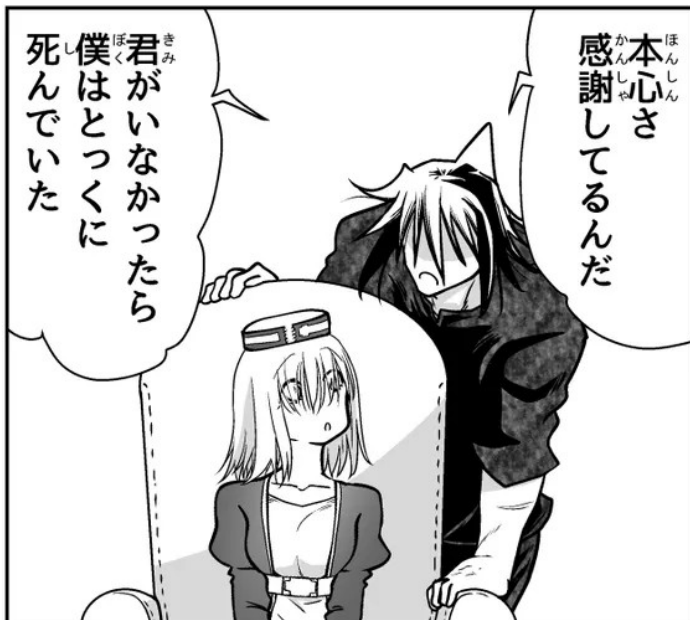
僕も
ほくも
エメアに
ほうじゆつ
法術を教えて
もらったんだよ

へーいいね
エメアは教え上手
だからね



モイに法術を
ほうじゆつ
教えてるんです

無理言って
むりい
教えて
おし
もらってまして



君がいなかったら
きみ
僕はとっくに
ほく
死んでいた

本心さ
ほんしん
感謝してるんだ
かんしゃ



それだけじゃない
エメアからは色んな
たいせつな
大切な事を教わった
こと

もう急になんですか？
きう
褒められても
ほ
何も出ませんよ？
なに



私、もしかして口説かれていますか？

……あれ？



それに…綺麗だ

僕には勿体ないくらい…

雪のような白い髪に…肌も透き通るようで…綺麗だ



へたくソでごめんね……

いえいえいえ！

ちよつと意表を突かれて！

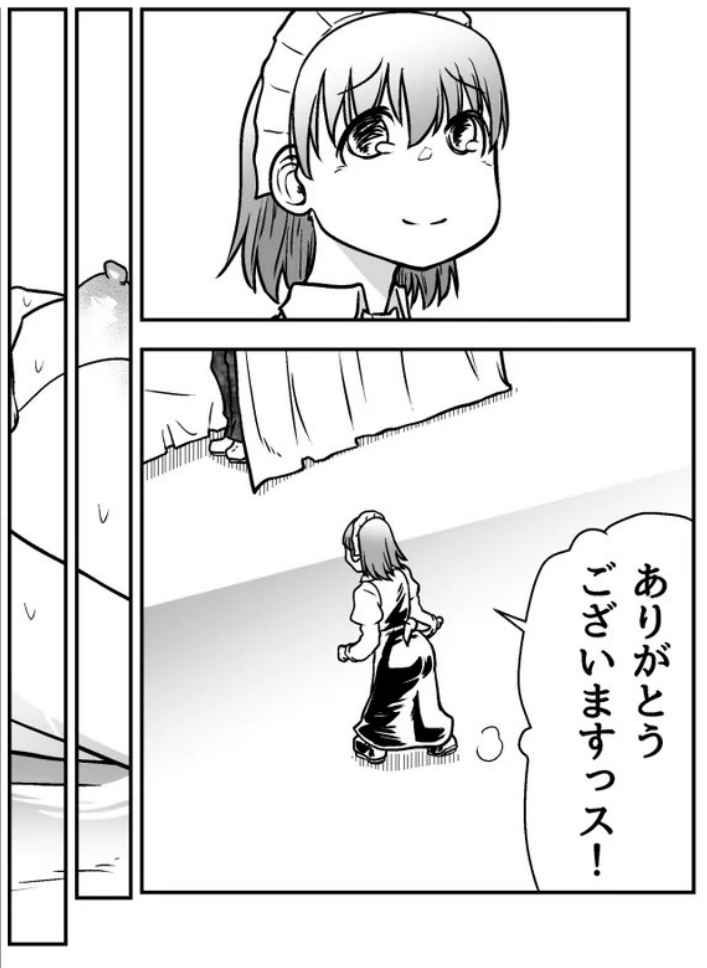
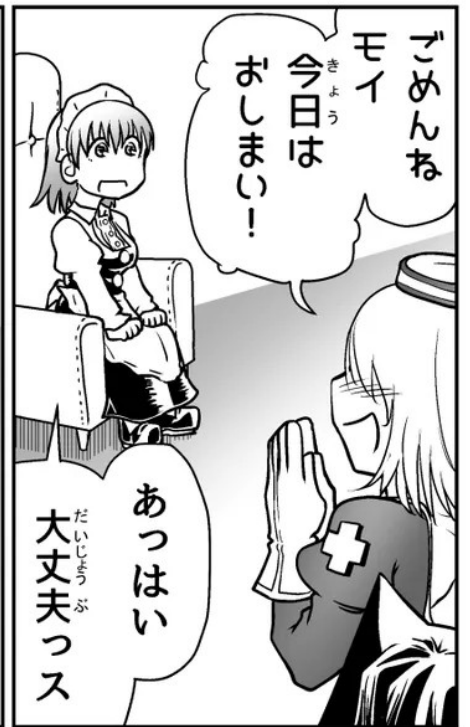
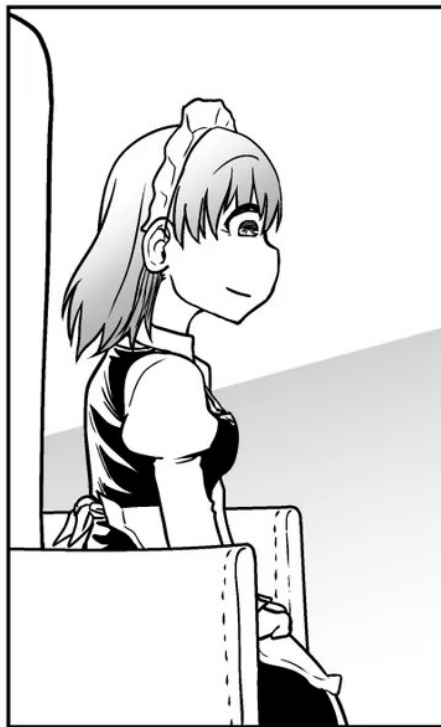
ぜんぜん大丈夫です

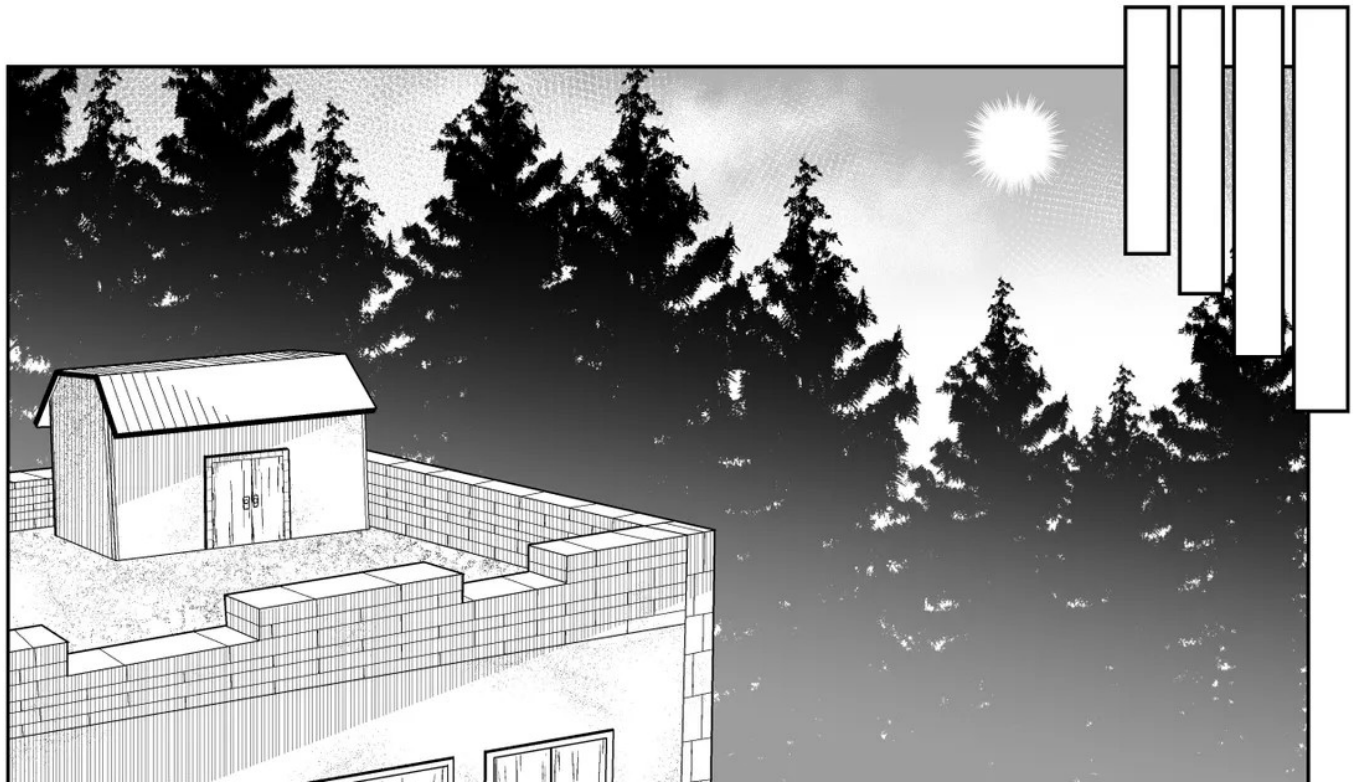
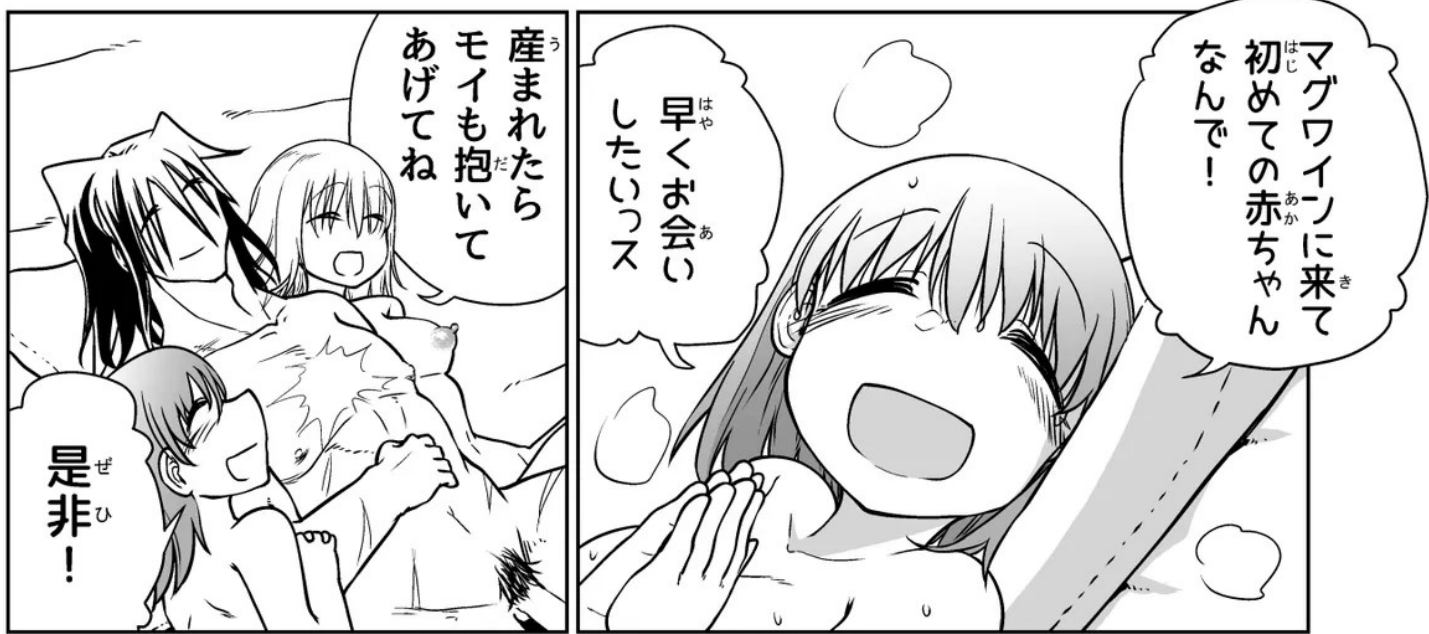


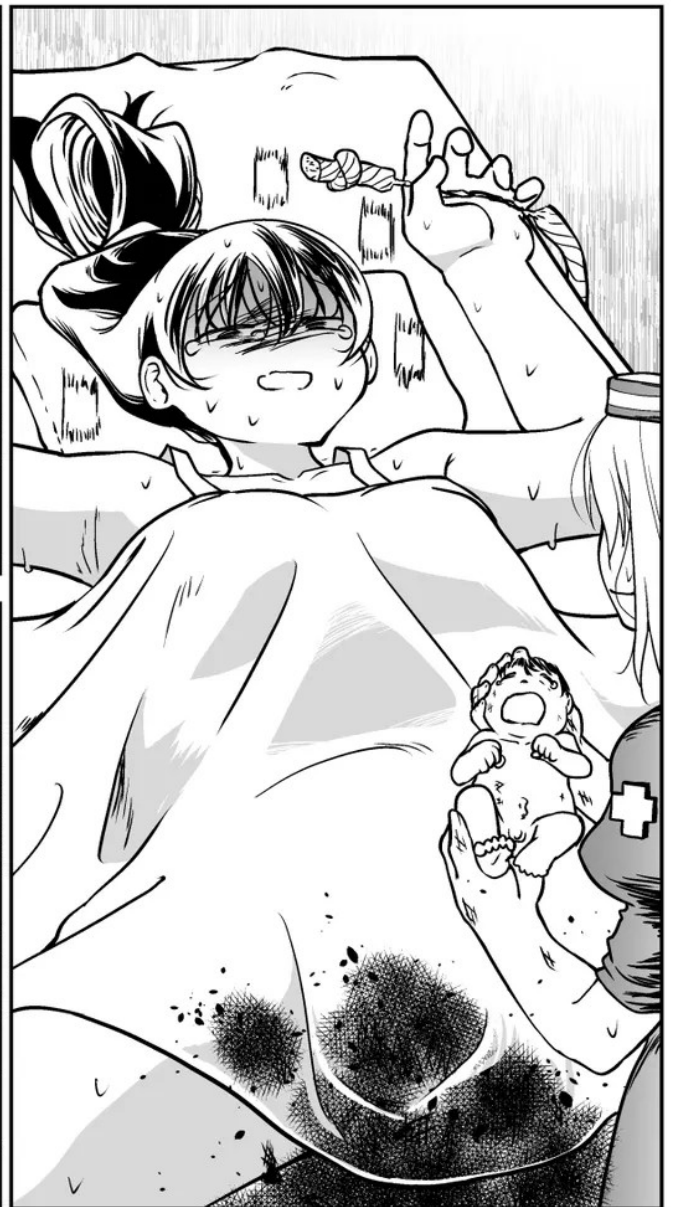
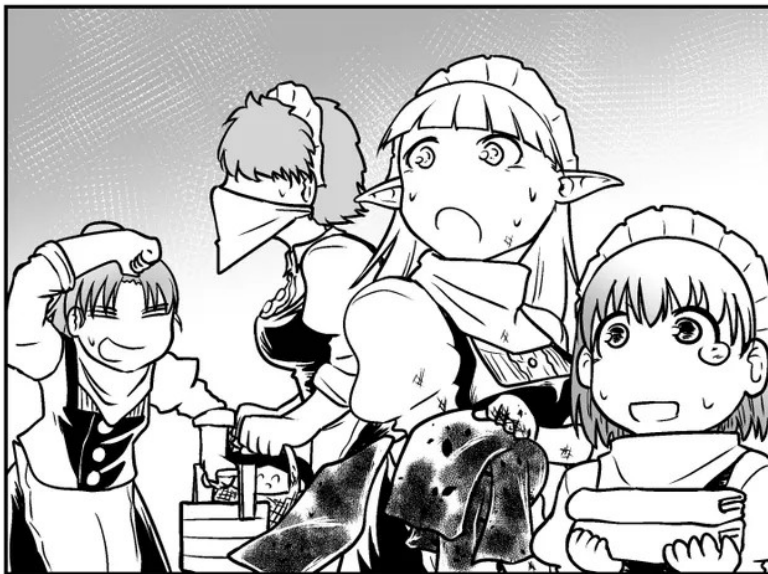
まいったなあ〜！

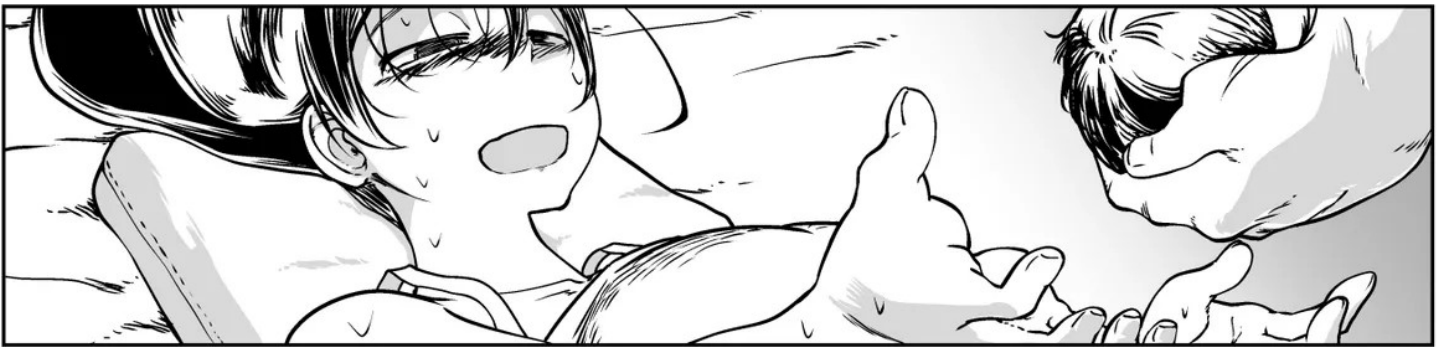
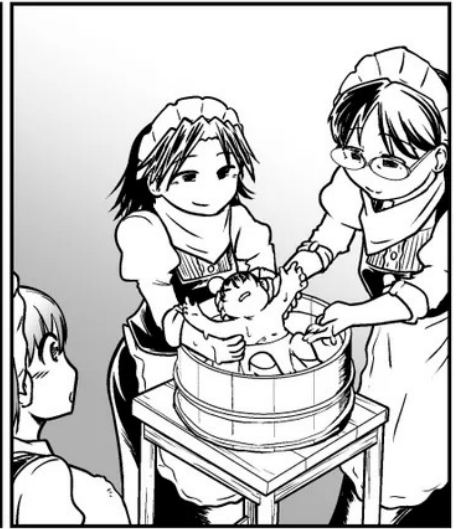


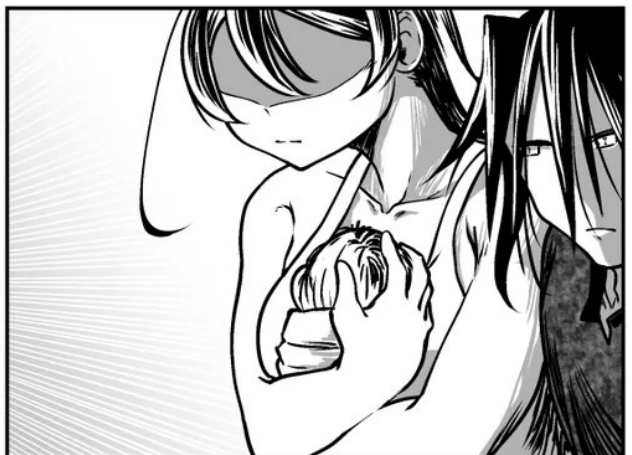
あ〜そっかつ私を！そ〜っつ













げんき
で暮ら
せよ

マアモル

もう
4度目
だよ?

だいじ
だよ



こうこく こくおう
ファッギン 国王
さんせい
マラーノ三世

おさ
治める
もの
者として
感謝
申し
上げる

わが
むすめ
娘
マリア
ーテ

じんるい
の宝
剣
勇者
ゼフ
オン
ト

公国の守護として
生まれし命

その幼い身
成熟させる為
国を挙げて
育て守ること

マラーノの名をもって
此処に宣誓いたす



姉上

こちらへ

王位継承一位
マノー

息子を……

よろしく
お願いします……

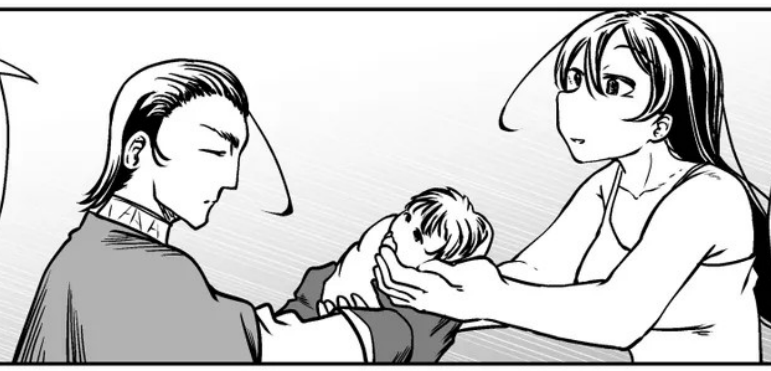


マノー

しっかり
やってる？

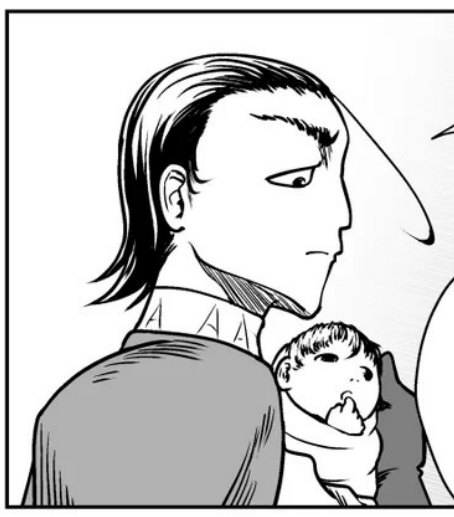
抜かり
有りません

しかし



私は今でも
あなたの方が
相応しいと
思っておりますよ

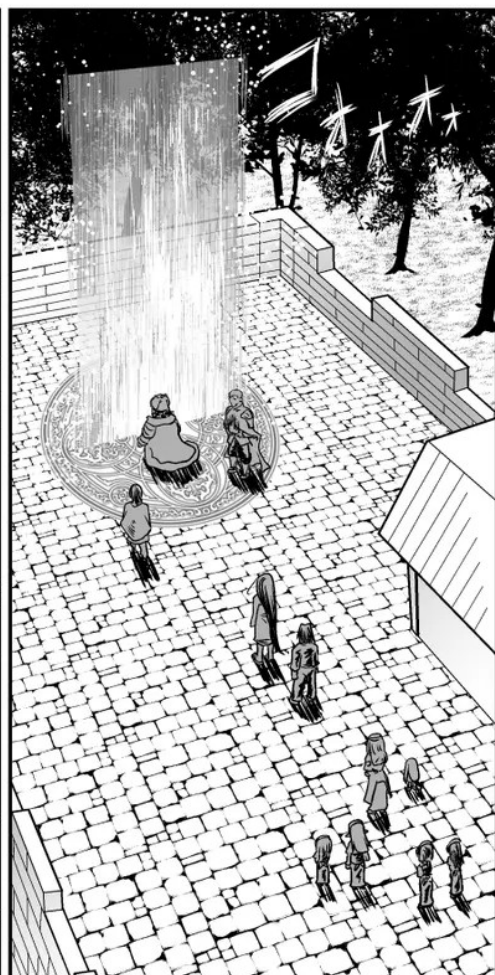
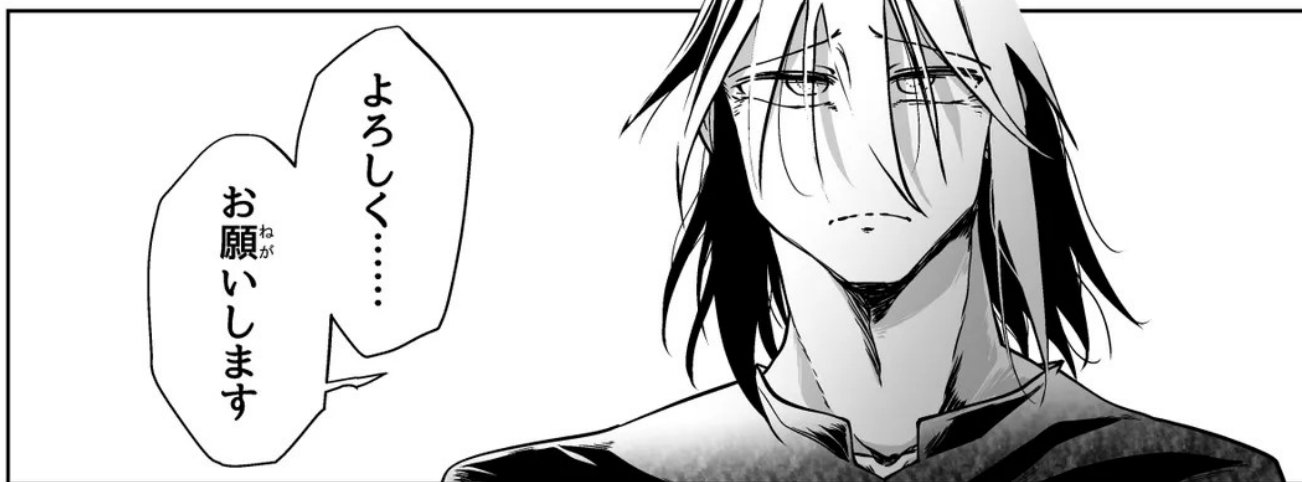
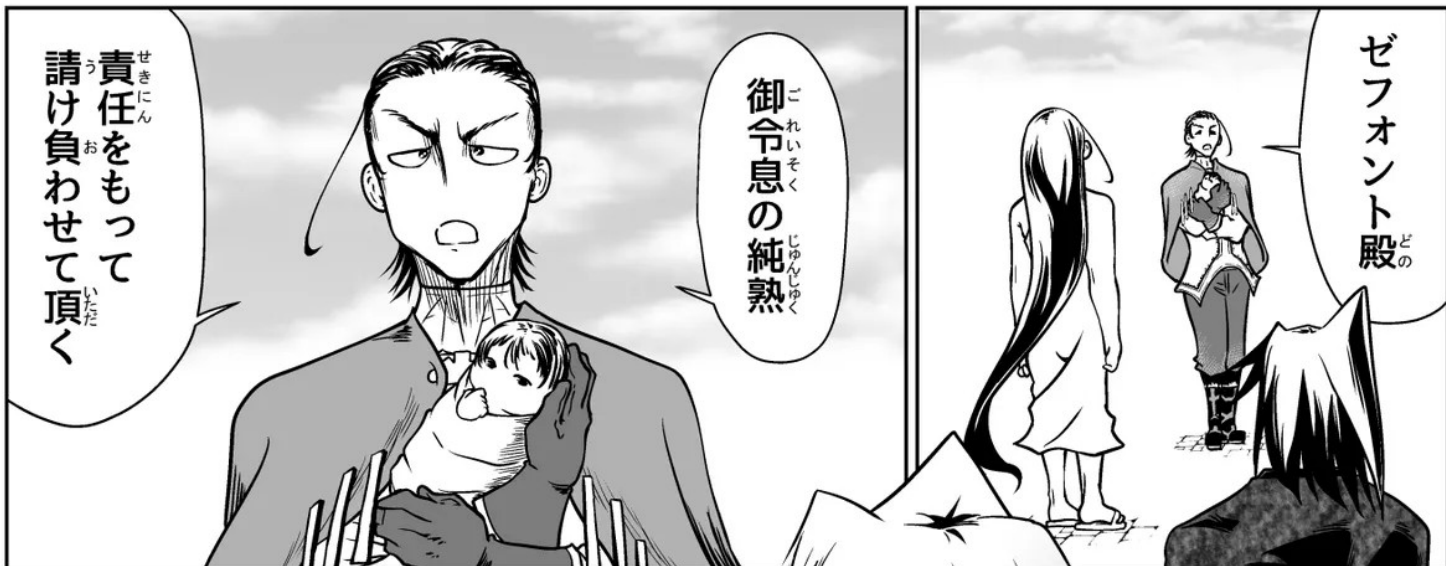
おも




次期王が
いつまで
言ってるの

そんなんじや
示しが
つかないよ







この時
私にはっきりと
理解しました



マグワインの館という
仕組みは

残酷なもの
だと謂う事を

新たなる守護者、名はマアモル

風の香る生命の
季節、心躍る
日々に嬉しい
報せが入った。
【救世】の勇者と
マリアーテ王女
の間に授けられた
守護者が、無事に
御出産と相成っ
たのだ。

マグワインの館
は、【救世】の血筋
を有する次代勇者
に、公国の守護者と
成って頂く為に

設けられた。魔王没後、無秩序に蔓延る魔物たちや覇権を争う国家間の混迷を征する為に重要な政策である。

マリアーテ王女との四人目の子は、〈マアモル〉と名付けられた。古き神々の言葉、山仙六語で「祝福」を意味する。名の通り祝福をもたらす存在としての成長を願うばかりだ。王室ではマアモル守護の誕生を祝い、ファーフレイの大通りで祭典を予定している。

【救世】の御子、第五子誕生



五人の守護者

【救世】の勇者とマラーノ国王の盟約によってマグワインの館で産まれた子は公国の守護者として育てられる。現在ではエメア僧侶の娘、アメカ守護。マリアーテ王女の子、マグナレーナ守護、マルゴ守護、マグニス守護、そして今回のマアモル守護で五人目となった。守護者は現在、ファッギン国内の村々で愛育されているが、その場所を知るのは王室関係者と村の人間だけである。





奥付

発行：Verみみずく

発行者：こみずく

発行日：2024/9

twitter：@COMIZK

◇本作品はフィクションです。

実在の人物・団体・事件などには一切関係ありません。

◇本作は成人向け書籍です。

18未満の閲覧、購読を禁じます。

◇本作を無断で転載・複製・配信・送信する等を禁止します。